

令和6年度第1回朝霞市子ども・子育て会議 次第

日 時：令和6年5月31日（金）
午後2時から午後4時まで
場 所：朝霞市民会館（ゆめぱれす）
201会議室

・開 会

・議題1 第3期朝霞市子ども・子育て支援事業計画策定に関する
アンケート及びヒアリングの調査結果・分析について

・議題2 今後の計画策定のスケジュールについて

・議題3 その他

・閉 会

朝霞市子ども・子育て会議 委員名簿【令和6年5月31日現在】
(任期：令和5年7月6日～令和7年3月31日)

定数25人以内

区分	選出団体等	氏名
第1号 知識経験を有するもの 【4名】	1 東洋大学	嶋崎 博嗣
	2 十文字学園女子大学	鈴木 晴子
	3 公益財団法人21世紀職業財団	山谷 真名
	4 小中学校校長会	小林 美加
第2号 保護者 【5名】	5 公営保育園保護者	宮内 郁恵
	6 民営保育園保護者	田島 由華
	7 幼稚園保護者	齋藤 文美
	8 朝霞市保護者代表連絡会	吉山 隼人
	9 朝霞市放課後児童クラブ連絡協議会	矢田 歩
第3号 子ども・子育て支援に 関する事業に従事するもの 【4名】	10 朝霞市社会福祉法人民間保育園連絡協議会	金子 雅美
	11 東上地区私立幼稚園協会朝霞支部	佐藤 順與
	12 社会福祉法人朝霞市社会福祉協議会	川合 義和
	13 朝霞地区福祉会みつばすみれ学園	岡部 利枝
第4号 公募による市民 【2名】	14 公募市民（審議会等公募委員候補者名簿）	神部 陽一
	15 公募市民（審議会等公募委員候補者名簿）	獅子倉 賢治
第5号 その他 【10名】	16 朝霞市議会議員	西 明
	17 朝霞市民生委員児童委員協議会（主任児童委員）	宮永 純子
	18 連合埼玉朝霞・東入間地域協議会	藤田 勇
	19 NPO法人なかよしねっと	安孫子 陽子
	20 子育て関連団体【子どもの遊び】 (朝霞市子ども会連合会)	渡邊 俊夫
	21 子育て関連団体【青少年健全育成】 (朝霞市青少年育成市民会議)	金子 和人
	22 子育て関連団体【児童養護】 (朝霞地区里親会)	江川 千佳子
	23 子育て関連団体【地域子育て】 (あさか子育てネットワーク：多文化子育ての会ばんびーに)	喜多 陽子
	24 子育て関連団体【子どもの居場所・貧困対策】 (子どもの居場所ネット：あさかみらいこども食堂)	吉村 智代
	25 子育て関連団体【児童館利用・多胎児サークル】 (児童館利用団体：にこにこサークル)	鶴田 美樹

朝霞市子ども・子育て会議委員 部会名簿

(任期：令和5年7月6日～令和7年3月31日)

令和6年5月31日現在

部会	選出団体等	氏名	区分
保育園等運営検討部会 (6名)	十文字学園女子大学	鈴木 晴子	1号
	朝霞市小中学校校長会	小林 美加	1号
	朝霞市放課後児童クラブ連絡協議会	矢田 歩	2号
	東上地区私立幼稚園協会朝霞支部	佐藤 順與	3号
	朝霞市民生委員・児童委員協議会	宮永 純子	5号
	朝霞市青少年育成市民会議	金子 和人	5号
保育園等利用者負担検討部会 (6名)	公益財団法人21世紀職業財団	山谷 真名	1号
	公営保育園保護者	宮内 郁恵	2号
	朝霞市社会福祉法人民間保育園連絡協議会	金子 雅美	3号
	連合埼玉朝霞・東入間地域協議会	藤田 勇	5号
	子ども会連合会	渡邊 俊夫	5号
	朝霞市地区里親会	江川 千佳子	5号
子ども・子育て支援事業計画部会 (13名)	学校法人東洋大学	嶋崎 博嗣	1号
	民営保育園保護者	田島 由華	2号
	幼稚園保護者	齋藤 文美	2号
	朝霞市保護者代表連絡会	吉山 隼人	2号
	朝霞市社会福祉協議会	川合 義和	3号
	朝霞地区福祉会みつばすみれ学園	岡部 利枝	3号
	公募市民	神部 陽一	4号
	公募市民	獅子倉 賢治	4号
	朝霞市議会議員	西 明	5号
	NPO法人なかよしねっと	安孫子 陽子	5号
	あさか子育てネットワーク	喜多 陽子	5号
	子どもの居場所ネット	吉村 智代	5号
	児童館利用団体	鶴田 美樹	5号

計25名

子ども・子育て支援に関する現状・ニーズについて

～子ども・子育て支援に関するアンケート調査結果より～

令和6年1月に実施した「アンケート」結果より、市内の子どもや子育て家庭の現状やニーズについて次のような傾向があることが分かりました。これらを踏まえ、第三期計画策定の施策を検討していく必要があります。

(1)保護者の就労状況

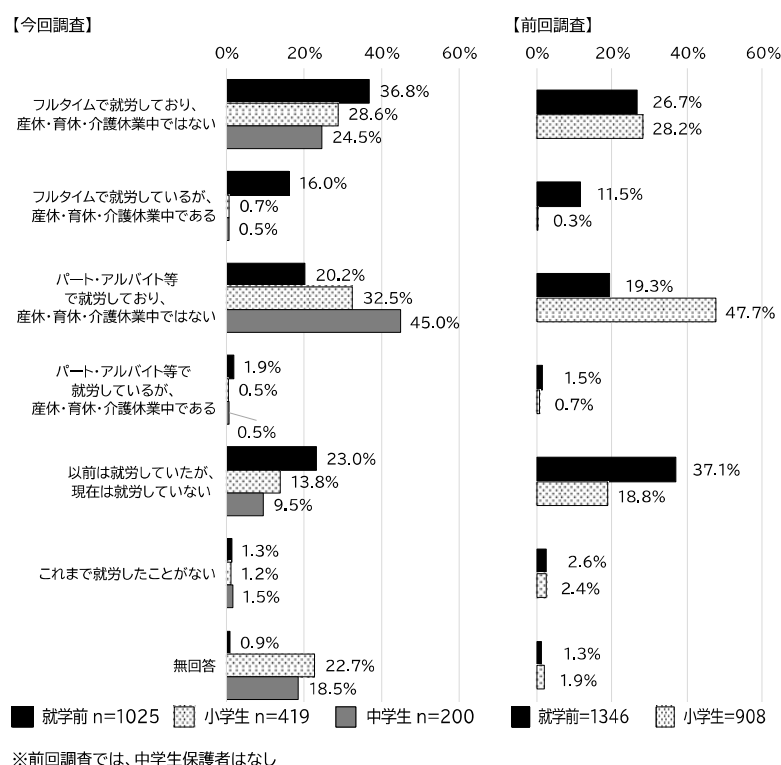
<調査結果>

- 就学前児童保護者の調査では、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が36.8%と最も多く、前回調査から10.1ポイント増加しています。前回調査で最も多かった「以前は就労していたが、現在は就労していない」は23.0%と、前回調査から14.1ポイント減少しています。
- 小学生保護者の調査では、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が32.5%と前回調査から引き続き最も多くなっています。
- 中学生保護者の調査では、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が45.0%と前回調査から引き続き最も多くなっています。
- 「以前は就労していたが、現在は就労していない」割合はこどもの年齢が上がるにつれて下がっています。

<傾向と課題>

- 共働き世帯が増え、保育所や学童保育の利用希望割合は高まっていると考えられますが、少子化傾向も進んでおりますので、両方を勘案して量の見込み等を立てる必要があります。
- 各地域子ども・子育て支援事業についても、事業内容や利便性が共働き世帯ニーズと合致しているかを検討する必要があります。

【母親の就労状況】



(2)子育てへの関わり方

<調査結果>

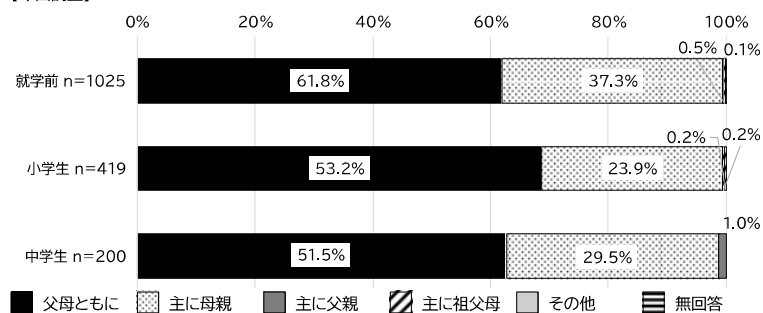
- 就学前児童保護者の調査では、「父母ともに子育てをしている」が61.8%と最も多く、前回調査から10.5ポイント増加しています。
- 就学前児童・小学生・中学生保護者のいずれも「子育てをする上で気軽に相談できる人や場所」について過半数が「ある」と回答していますが、こどもの年齢が上がるにつれて割合が下がっています。特に小学生保護者は「ある」と回答した割合が、前回調査から22.3ポイント減少しています。
- 就学前児童・小学生・中学生保護者のいずれも「子育て(教育を含む)をする上で気軽に相談できる相談先」について「祖父母等の親族」「友人や知人」が最も多くなっています。就学前児童保護者は「保育園等」と回答した割合が、前回から9.3ポイント増加しています。小学生保護者は「近所の人」と回答した割合が、前回から9.8ポイント減少しています。

<傾向と課題>

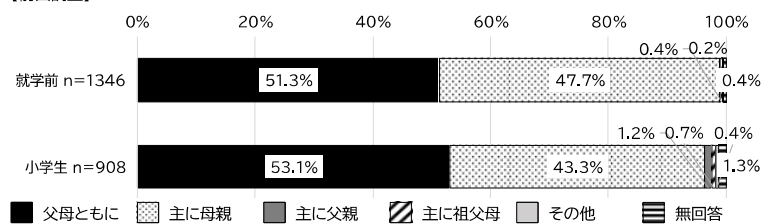
- 相談先が「いない/ない」と回答している割合がこどもの年齢が上がるにつれて上がっています。
- 就学前児童・小学生・中学生保護者のいずれも「祖父母等の親族」「友人や知人」に次いで、「保育園等」や「幼稚園」、「小学校・中学校」等 すでに関わりのある場所を相談先として挙げています。相談機関の充実とともに、そういった 教育・保育機関を経由した支援や情報周知等も有効であると考えます。

【子育て(教育を含む)に日常的に関わっている人・施設】

【今回調査】



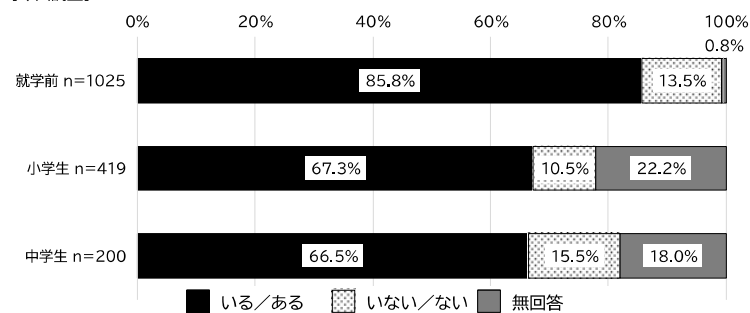
【前回調査】



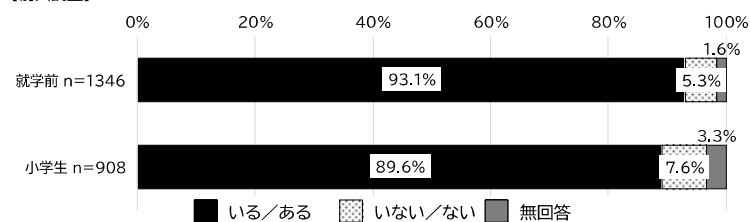
※前回調査では、中学生保護者はなし

【子育てをする上で気軽に相談できる人や場所の有無】

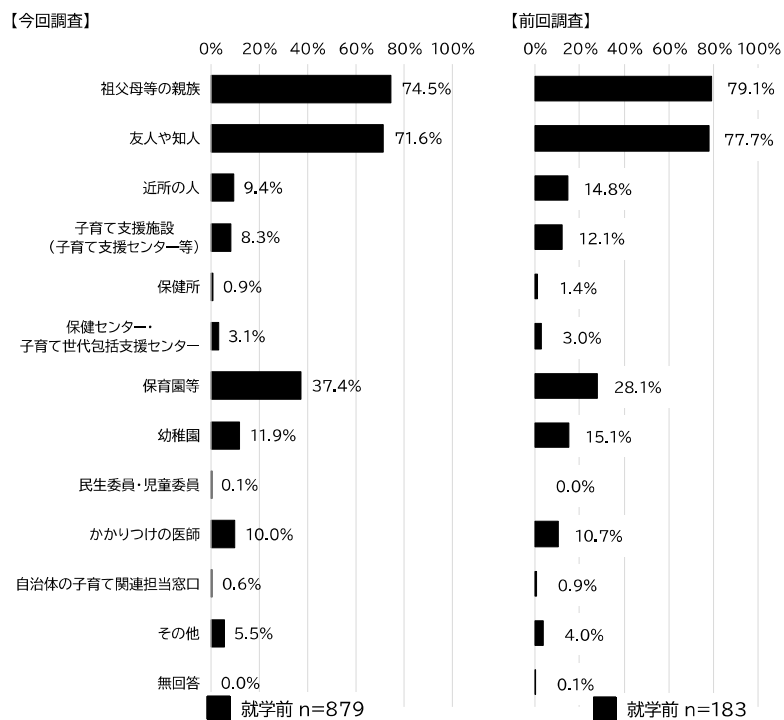
【今回調査】



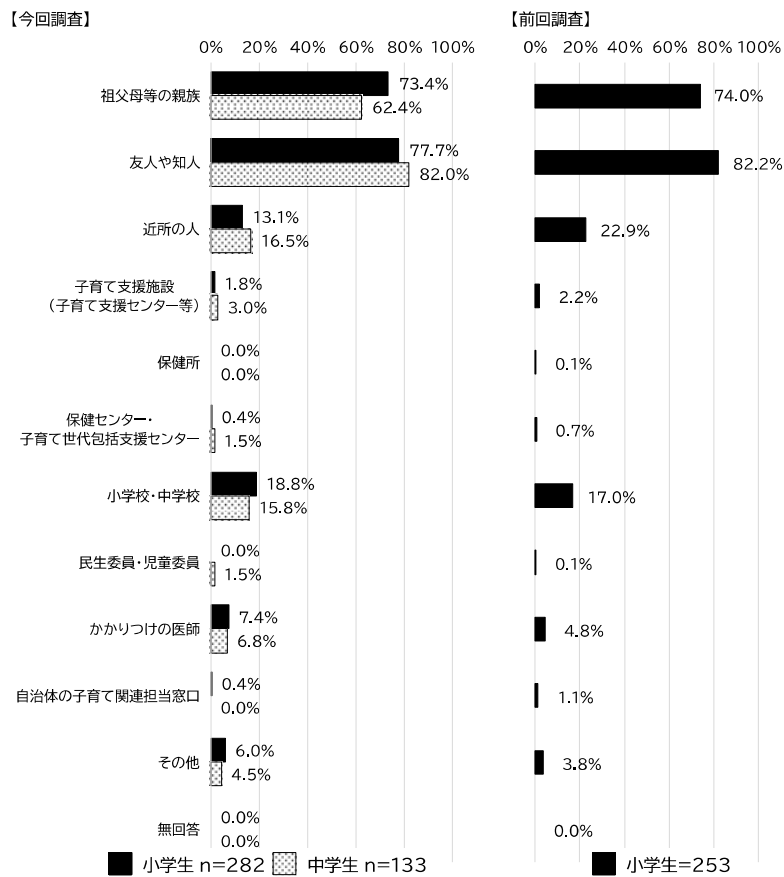
【前回調査】



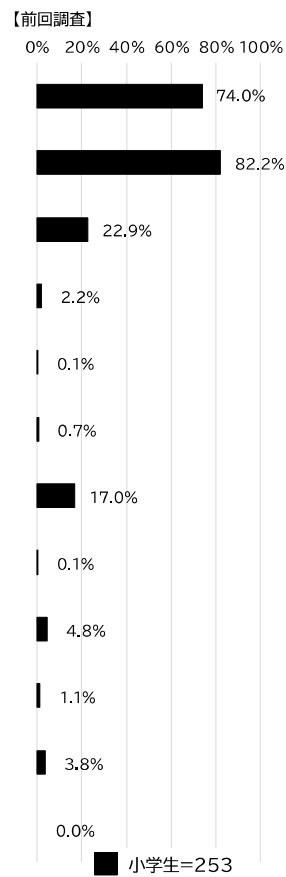
【相談できる人・場所(未就学児保護者)】



【相談できる人・場所(小・中学生保護者)】



※前回調査では、中学生保護者はなし



(3)教育・保育事業の利用状況と希望

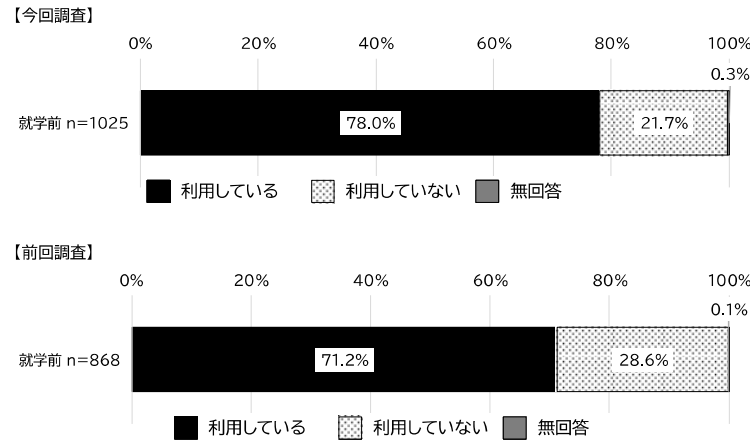
<調査結果>

- 「定期的な教育・保育事業」について「利用している」が78.0%と、前回調査から6.8ポイント増加しています。また「認可保育所」が59.8%と最も多く、前回調査から9.2ポイント増加しています。「幼稚園」が29.1%と、前回調査から11.5ポイント減少しています。
- 「利用を希望している定期的な教育・保育事業」について「認可保育園」が59.6%と最も多く、前回調査から6.5ポイント増加しています。次いで「幼稚園」が41.7%と前回調査から11.0ポイント減少しています。「幼稚園の預かり保育」も26.0%と前回調査から5.9ポイント減少しています。
- 「利用を希望している定期的な教育・保育事業」について、前回調査では、「認可保育園」と「幼稚園」の希望には大きな差異がありませんでしたが、今回調査では17.9ポイントの開きが出ています。また 新制度である「こども誰でも通園制度」はまだ具体的なサービスがないにもかかわらず13.6%が希望しており、子育て世帯の関心の高さが伺えます。

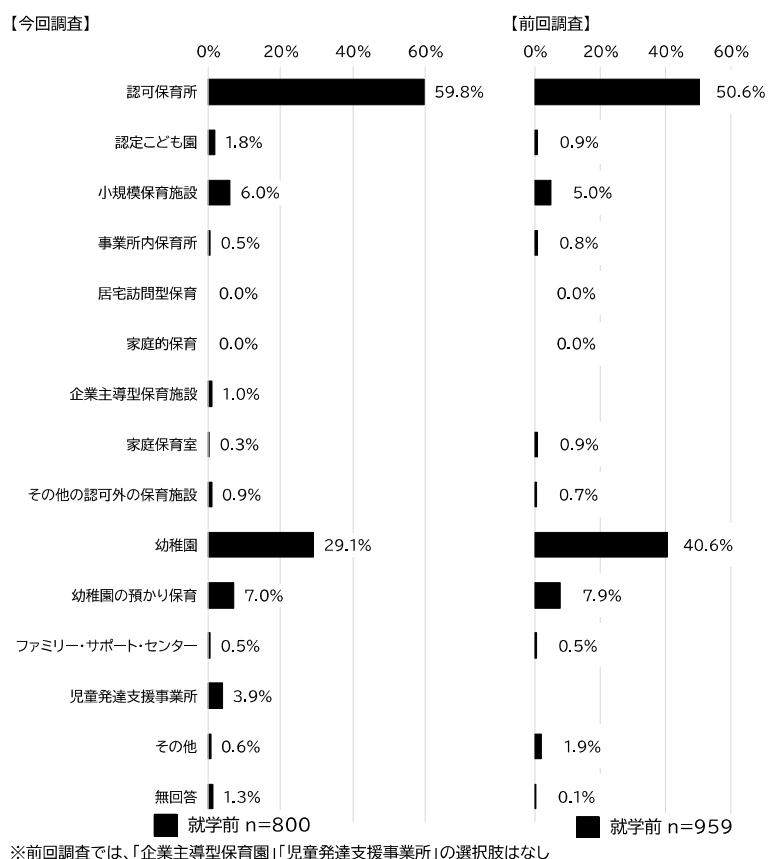
<傾向と課題>

- 母親のフルタイム就労の割合が増えていることもあり、「保育園」の利用・利用希望がますます増えていきます。
- 「こども誰でも通園制度」も一定の関心が寄せられており、就労要件を問わない預かりについても検討が必要です。

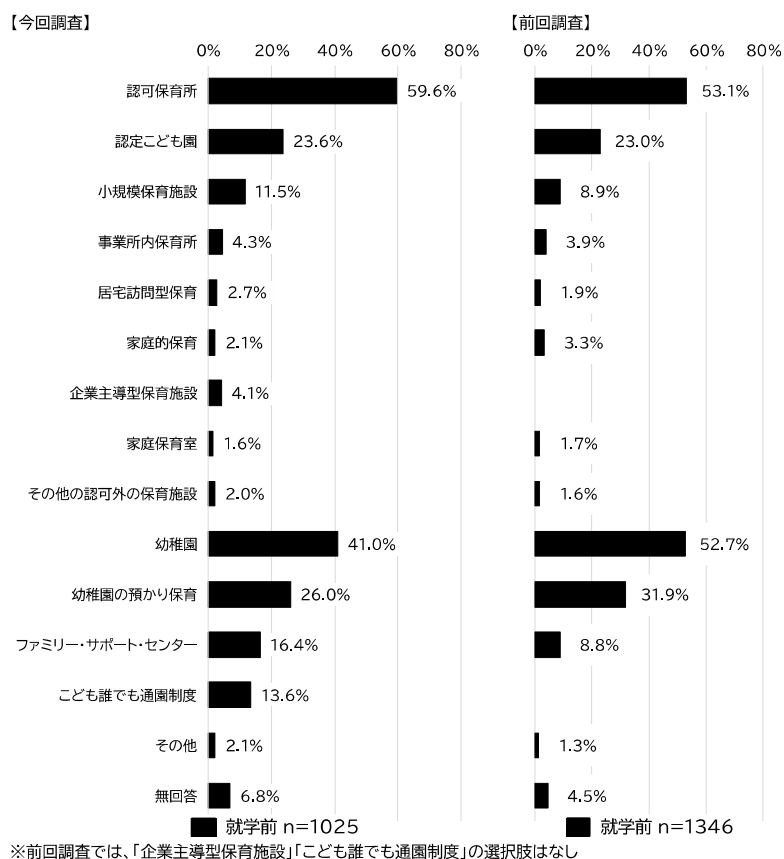
【定期的に利用している事業の有無】



【定期的に利用している事業】



【利用を希望している定期的な教育・保育事業】



(4)子ども・子育て支援事業の利用状況と希望

<調査結果>

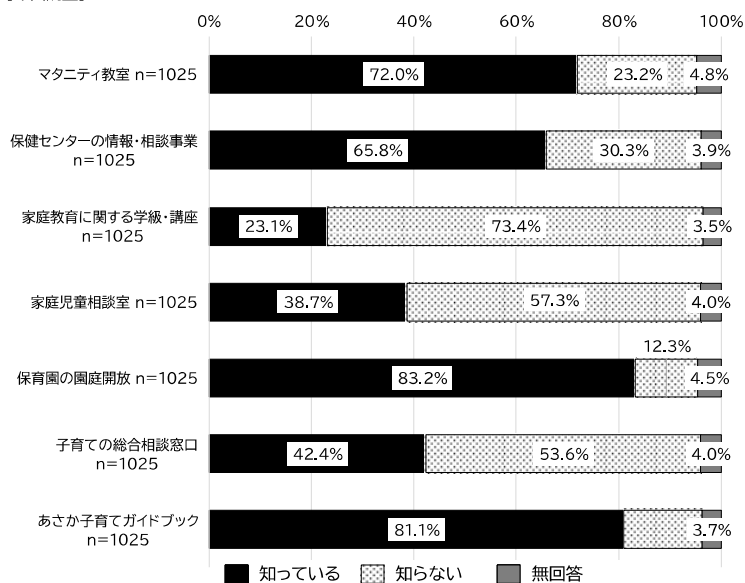
- 「各種支援事業の認知状況」について「あさか子育てガイドブック(自治体発行の子育て支援情報誌)」を除いてすべての事業で認知度が下がっています。特に「家庭児童相談室」は38.7%と前回調査から12.4ポイント、「マタニティ教室」は72.0%と前回調査から11.1ポイント減少しています。
- 「こどもが病気等で事業が利用できなかった・学校を休む必要があった際の対処方法」は、就学前児童・小学生・中学生保護者ともに「母親が休んだ」が最も多いですが、前回調査と比較すると就学前児童・小学生保護者いずれも「父親が休んだ」割合が増えています。
- 「放課後(平日の学校終了後)の現在の過ごし方(小学生)」放課後を過ごさせたい場所(就学前保護者)はほとんどの選択肢で利用希望が減っており、複数の場所・サービスよりも特定の場所・サービスで過ごさせている・過ごさせたいと考えている保護者が多いことが伺えます。

<傾向と課題>

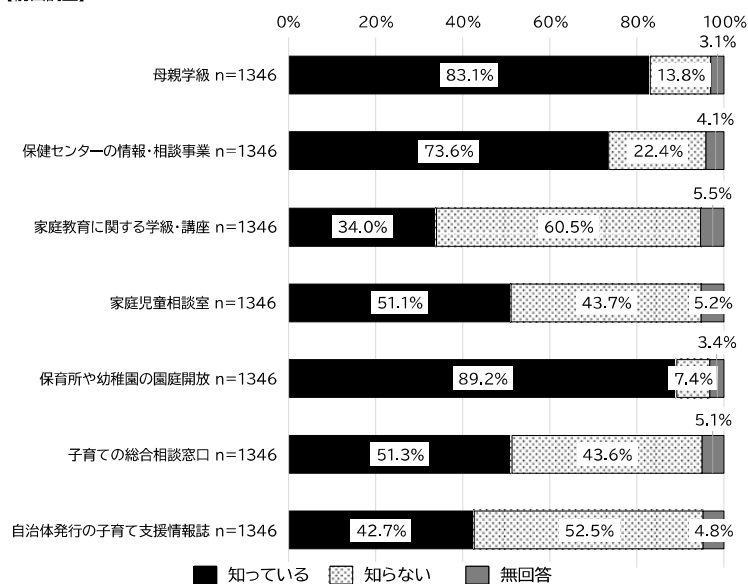
- 「各種支援事業の認知状況」については、コロナ禍で中止・縮小した事業もあり、認知度が下がったと思われます。
- 前述の設問「子育て(教育を含む)をする上で気軽に相談できる相談先」として、「祖父母等の親族」「友人や知人」に次いで多かったのが「保育園」や「幼稚園」でしたが、こういった定期的な教育・保育事業の利用を開始する前にいかに必要な情報を子育て世帯に届けるかは課題となりそうです。
- 「こどもが病気等で事業が利用できなかった・学校を休む必要があった際の対処方法」はいまだ母親の負担が大きいです。父親が休むケースも増えてきています。各種制度について 母親・父親ともに使いやすくなっているか、という視点での見直しも必要そうです。

【各種支援事業の認知状況】

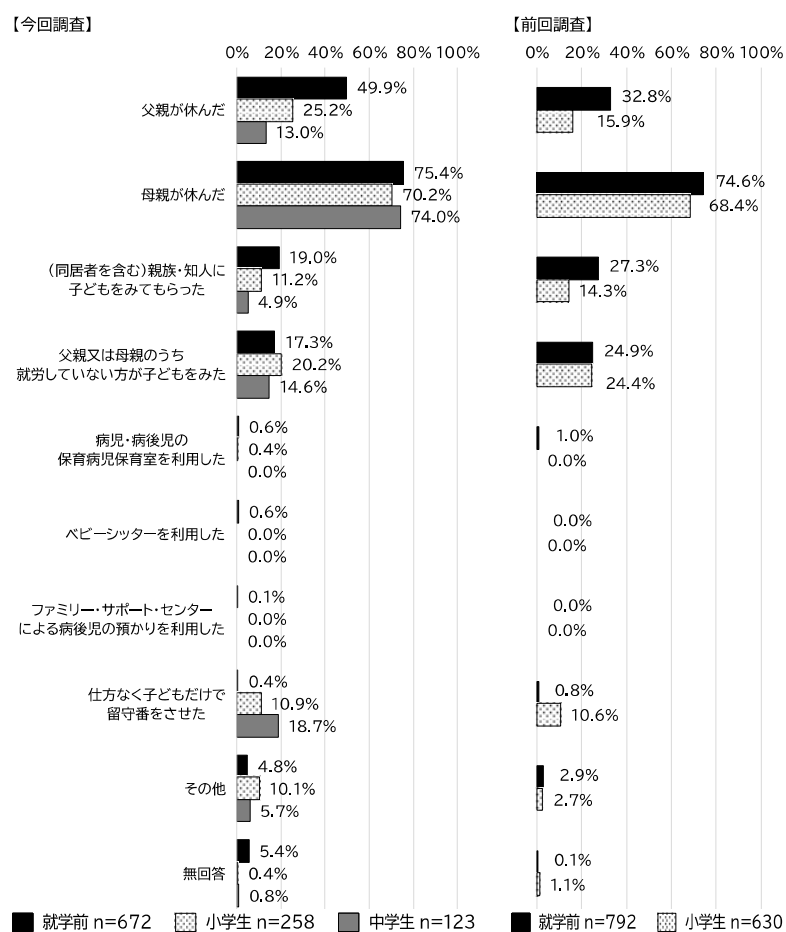
【今回調査】



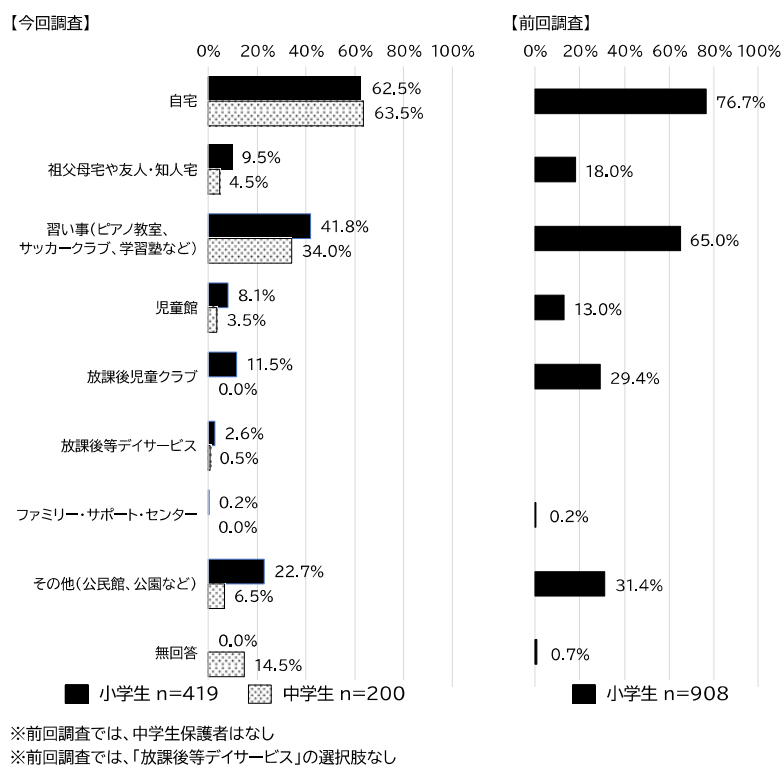
【前回調査】



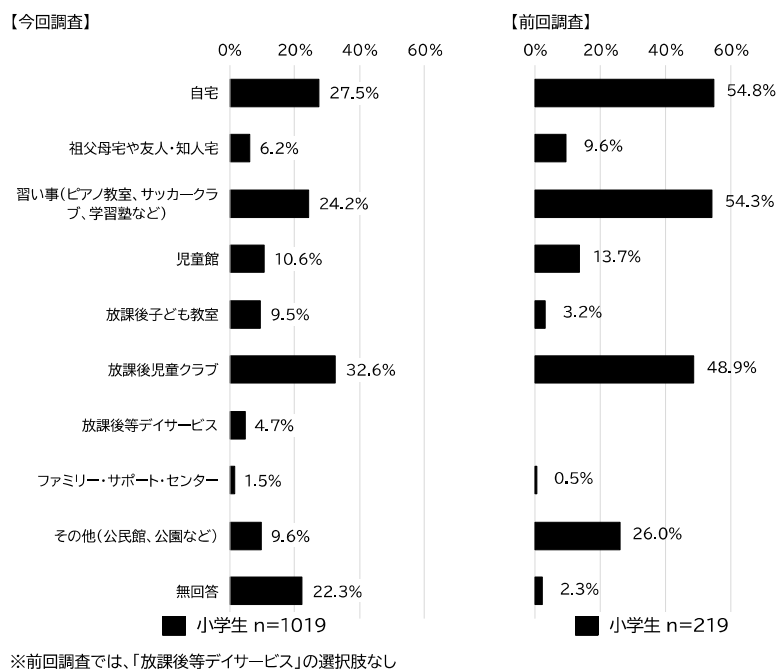
【こどもが病気等で事業が利用できなかった・学校を休む必要があった際の対処方法】



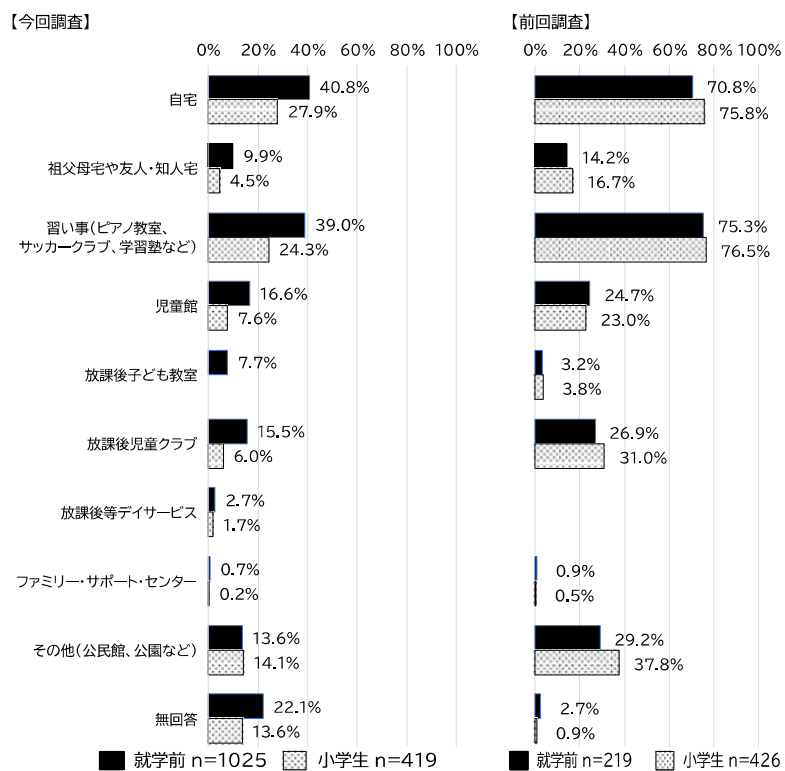
【放課後(平日の学校終了後)の現在の過ごし方(小学生保護者)】



【小学校低学年の間、放課後を過ごさせたい場所(就学前保護者)】



【小学校高学年の間、放課後を過ごさせたい場所(就学前保護者)】



(5)子育ての不安や悩みなどについて

<調査結果>

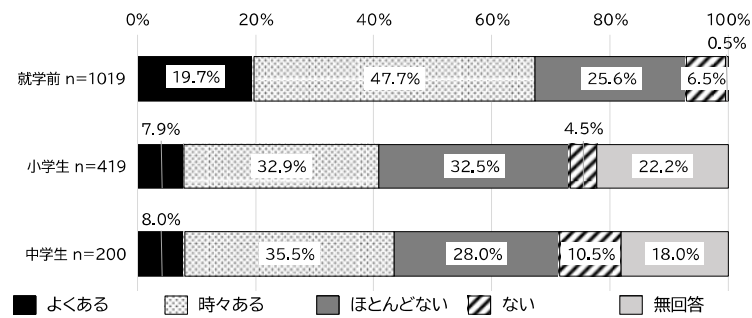
- 「子育ての負担感(「よくある」と「時々ある」の合計)は、就学前児童保護者で67.4%、小学生保護者で40.8%が感じています。前回調査から就学前児童保護者は2.4ポイント減少し、小学生保護者は5.9ポイント増加しています。
- 子育てで負担を感じる理由は、「その他」が最も多く、就学前児童保護者は「仕事との両立が大変」「自分の時間がない・忙しい」等の意見が多いです。小学生保護者は「仕事との両立が大変」「勉強や進学先のフォローが大変」「反抗期のこどもへの対応が難しい」等の意見が多いです。
- 子育てで悩んでいること、気になることは、全体的に割合が上がっており、複数の悩みを抱えている保護者が増えていることがわかります。就学前児童保護者は「仕事や自分のやりたいことが十分できない」が52.0%と前回調査から21.3ポイント増加しています。小学生保護者は「病気や発育・発達」が37.4%と前回調査から25.8ポイント増加しています。
- 子育てに関した楽しいと感じるか・つらいと感じるかは、「楽しいと感じることの方が多い」と回答している割合が高いものの、前回調査から就学前児童保護者は4.9ポイント、小学生保護者は18.3ポイント減少しています。
- 子育ての不安感や負担感、つらさなどを解消するために必要なことは、就学前児童保護者で「保育サービスの充実」が61.3%と最も多く、次いで「仕事と家庭生活の両立支援」が60.1%、小学生保護者で「仕事と家庭生活の両立支援」が47.5%と最も多く、次いで「地域における子育て支援の充実」が43.4%、中学生保護者で「保育サービスの充実」が53.5%と最も多く、「子育て世代と子育て経験者が交流する機会」が41.5%となっています。前回調査から就学前児童保護者は「仕事と家庭生活の両立支援」が11.1ポイント増加しています。

<傾向と課題>

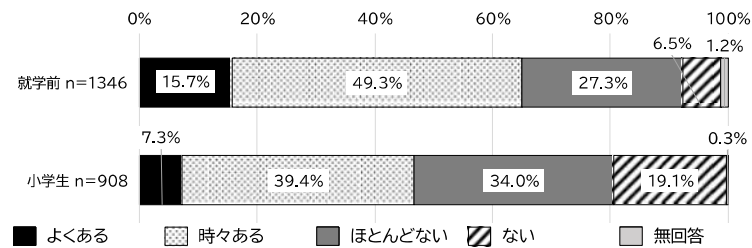
- 就学前保護者は両親ともにフルタイムで就労している割合が高いこともあって、「仕事との両立」や「自分の時間がない・忙しい」ことに負担感を感じる人が多いです。「子育てで悩んでいること、気になること」でも「仕事や自分のやりたいことが十分できない」が増えています。教育・保育事業の充実の他、就労を要件としない預かりサービスの充実が求められます。
- 小学生・中学生保護者は、こどもとの関わりに悩みを抱えることが多く、別の設問で「相談先がない」と回答している割合がこどもの年齢が上がるにつれて増えていたことも踏まえ、こどもの年齢に応じた相談体制の整備が求められます。また、発達障害の認知度も上がったことから「病気や発育・発達」に悩む保護者も増えていますので、こちらも支援体制の強化が必要です。

【子育ての負担感】

【今回調査】



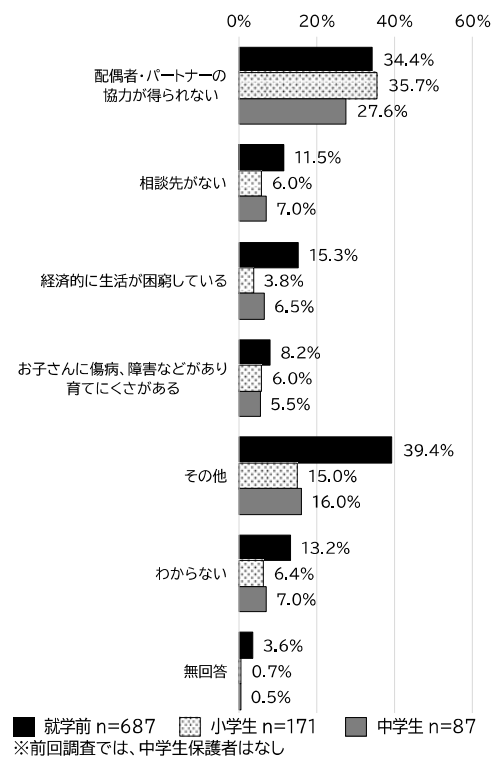
【前回調査】



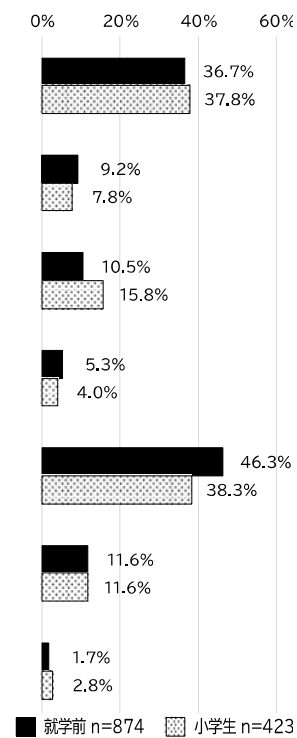
※前回調査では、中学生保護者はなし

【子育ての負担を感じる理由】

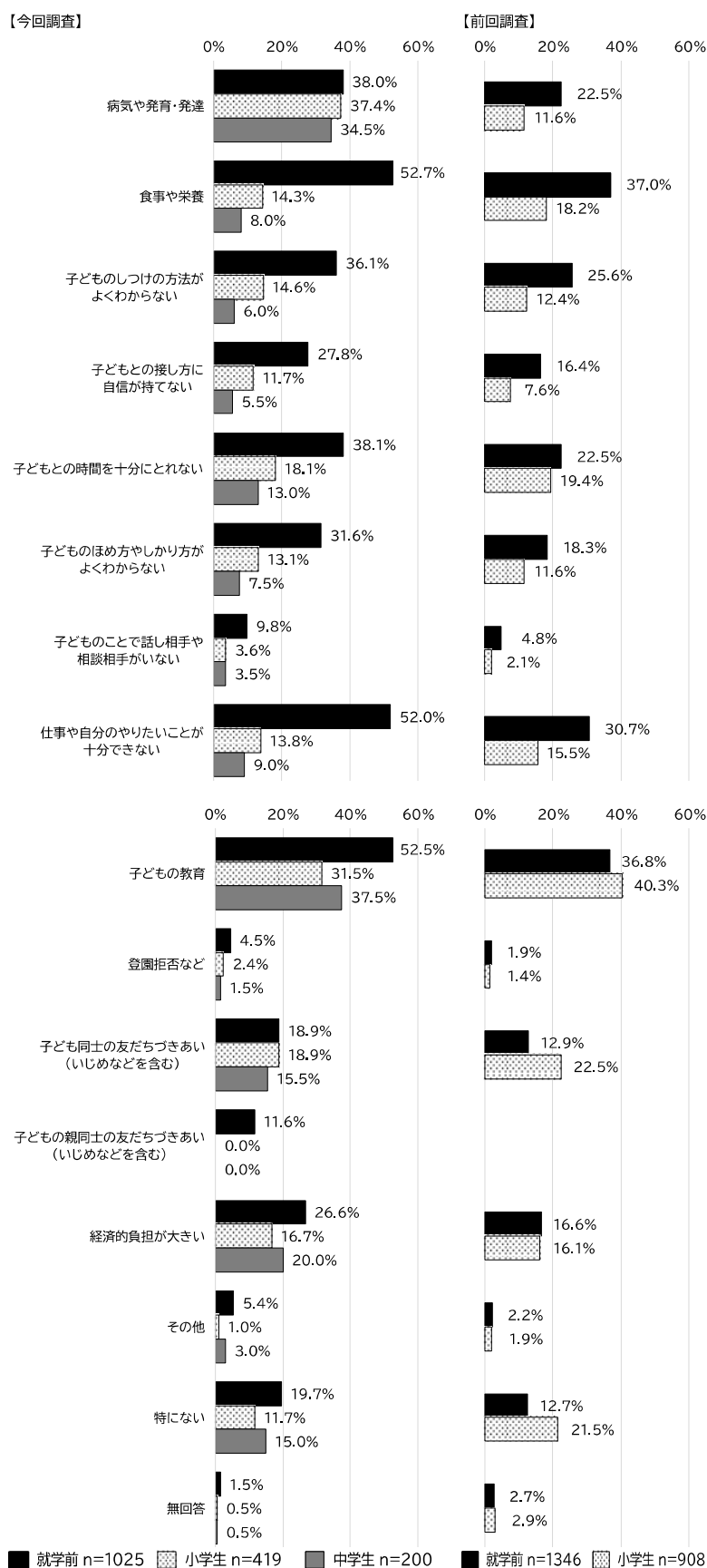
【今回調査】



【前回調査】

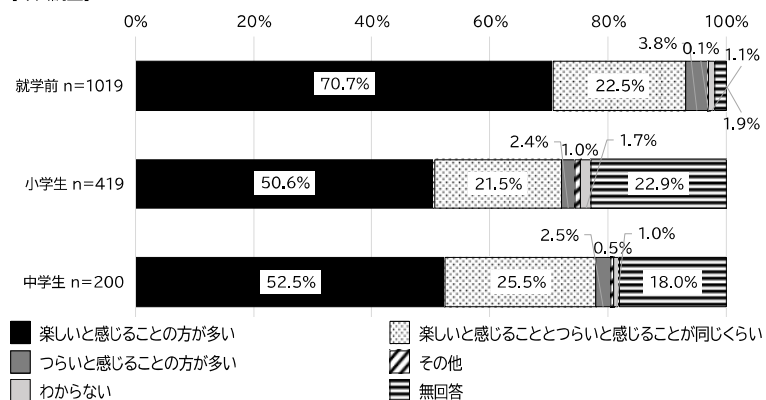


【子育てで悩んでいること、気になること】

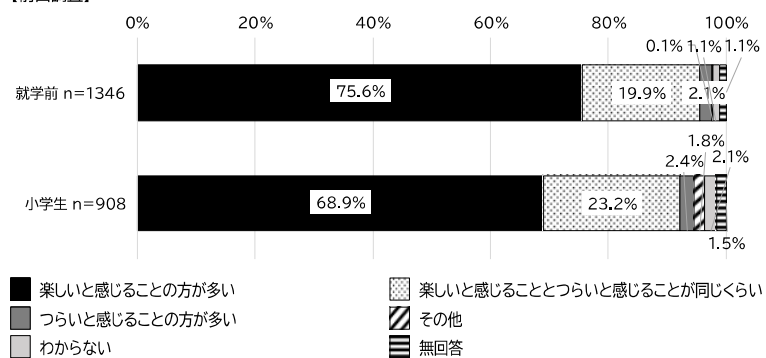


【子育てに関して楽しいと感じるか・つらいと感じるか】

【今回調査】

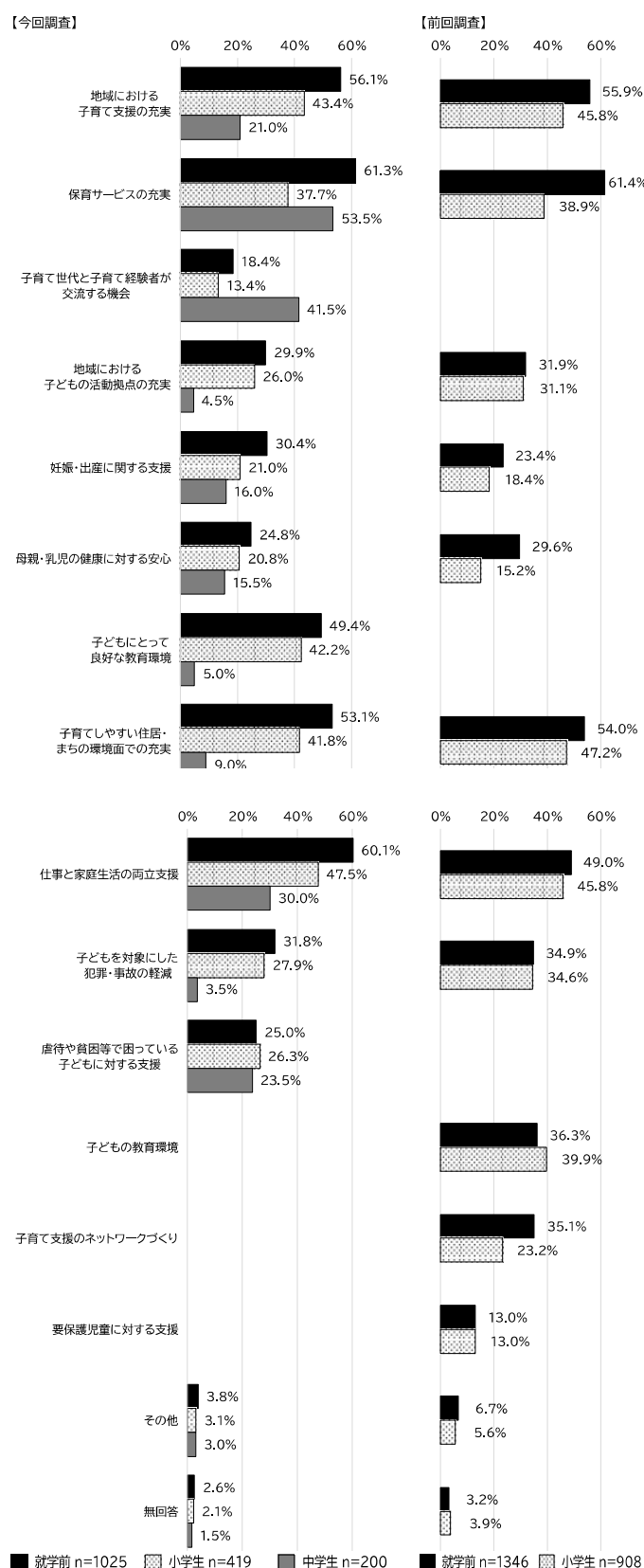


【前回調査】



※前回調査では、中学生保護者はなし

【子育ての不安感や負担感、つらさなどを解消するために必要なこと】



※前回調査では、中学生保護者はなし

※前回調査では、「子育て世代と子育て経験者が交流する機会」「子どもにとって良好な教育環境」「虐待や貧困等で困っている子どもに対する支援」の選択肢なし

※今回調査では、「子どもの教育環境」「子育て支援のネットワークづくり」「要保護児童に対する支援」の選択肢なし

(6)小学生・中学生・高校生 本人調査

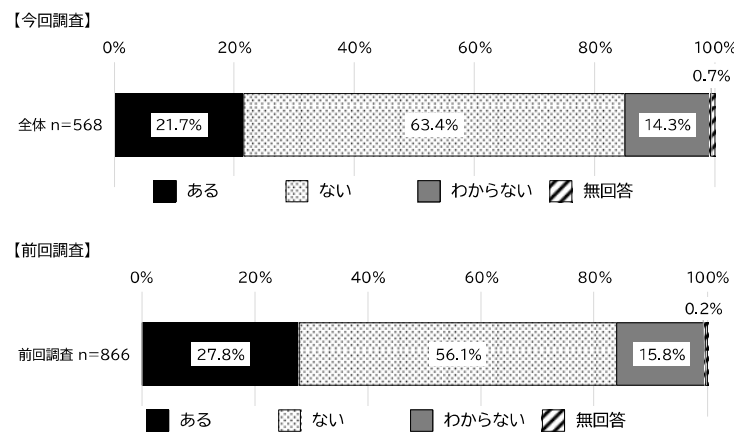
<調査結果>

- 親にたたかれたり、ひどいことを言われた経験が「ある」と回答した児童・生徒は21.7%で、前回調査から6.1ポイント減少していますが、5人に1人がたたかれたり、ひどいことを言われたりした経験があることがわかります。
- 希望する進学先は「大学まで」が最も多く55.5%で、次いで「特に理想はない」が15.3%、「高等学校まで」が10.7%となっています。

<傾向と課題>

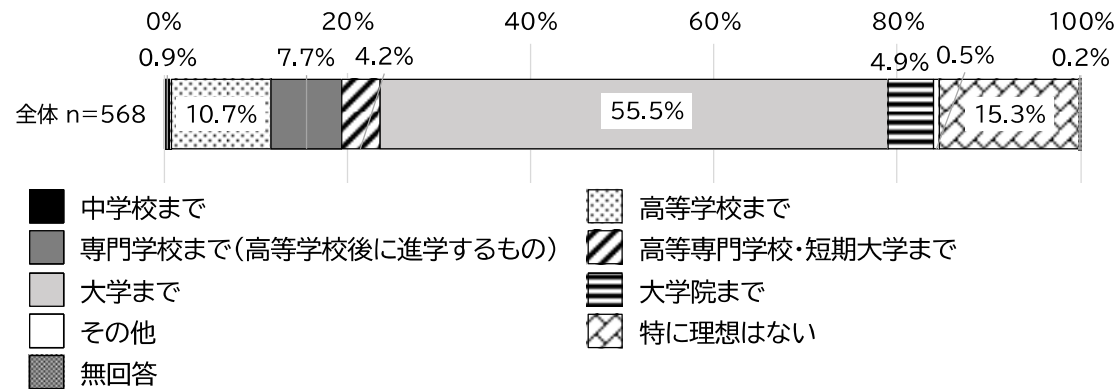
- 親にたたかれたり、ひどいことを言われた経験がある児童・生徒は減っているものの、いまだ5人に1人は経験があり、さらなる虐待防止の啓発と相談先の周知が必要です。

【親にたたかれたり、ひどいことを言われた経験】



【希望する進学先】

【今回調査】



子どもの生活に関する現状・ニーズについて

～子どもの生活に関するアンケート調査結果より～

令和6年1月に実施した「アンケート」結果より、市内の子どもや子育て家庭の現状やニーズについて次のような傾向があることが分かりました。埼玉県との調査結果との比較検討や、市内の課題を踏まえ、今後の子どもの貧困対策の施策を検討していく必要があります。

朝霞市と埼玉県の調査結果を比較する際の注意点等

- ・埼玉県の調査とは、「子どもの生活実態調査」(令和6年3月)を指します。
- ・埼玉県の調査は、次の自治体・対象に対して行ったものです。

対象自治体	川口市(南部地域)、新座市(南西部地域)、松伏町(東部地域)、桶川市(県央地域)、嵐山町(川越比企地域)、飯能市(西部地域)、久喜市(利根地域)、熊谷市(北部地域)、小鹿野町(秩父地域)
対象年齢・学年	公立小学校第5学年児童とその保護者(対象17校) 公立中学校第2学年生徒とその保護者(対象12校)
調査対象児童数	計4,462人

・朝霞市の調査では、埼玉県の調査と比較して生活困難層・中間層・非該当層の分類方法が異なります。朝霞市では、可処分所得水準(世帯人数別)と食料・衣類を購入できなかった経験や公共料金等を支払えなかった経験により家庭の経済的状況を分類していますが、埼玉県の調査では可処分所得水準(世帯人数別)のみで「中央値以上」「中央値の1/2以上中央値未満」「中央値の1/2未満」で分類しています。本調査では、朝霞市の「生活困難層」と埼玉県の「中央値の1/2未満」、朝霞市の「中間層」と埼玉県の「中央値の1/2以上中央値未満」、朝霞市の「非該当層」と埼玉県の「中央値以上」を同分類と考え、比較します。

・朝霞市の調査では、埼玉県の調査と比較して調査対象数が異なります。クロス集計を行った結果、各層の基数が少ない場合は誤差の範囲が大きくなり、比率が上下しやすいため、注意が必要です。

・この資料では子どもの貧困に関する朝霞市の特徴を捉えるため、生活困難度の分類が可能な「世帯収入」と「世帯人数」を回答した対象のみに絞って集計しています。

(1)子育て家庭の経済的な状況

<調査結果>

- 可処分所得水準(世帯人数別)と食料・衣類を購入できなかった経験や公共料金等を支払えなかった経験により家庭の経済的状況を3つに分類すると、経済的困難を抱えると想定される「生活困難層」の家庭は小学5年生で4.9%、中学2年生で5.3%程度と想定されます。

<傾向と課題>

- 埼玉県の調査では、「中央値の1/2未満」は小学5年生で7.6%、中学2年生で10.0%とっており、朝霞市では埼玉県と比べて「生活困難層」の割合は低くなっていますが、経済的困難を抱えている家庭が一定数存在することが明らかになりました。

【生活困難度の分布】

	調査数	生活困難層	中間層	非該当層
小学5年生	491	24(4.9%)	89(18.1%)	363(73.9%)
中学2年生	244	13(5.3%)	38(15.6%)	186(76.2%)

【生活困難度の分布(前回調査)】

	調査数	生活困難層	中間層	非該当層
小学5年生	856	48(6.0%)	140(16.0%)	668(78.0%)
中学2年生	401	19(5.0%)	67(17.0%)	315(79.0%)

【参考:生活困難度の分布(埼玉県)】

	調査数	中央値の1/2未満	中央値の1/2以上 中央値未満	中央値以上
小学5年生	764	58(7.6%)	245(32.1%)	362(47.4%)
中学2年生	700	70(10.0%)	222(31.7%)	264(37.7%)

<調査結果>

- 保護者の就労状況として、母親については、全体では「パート・アルバイト」が小学5年生保護者で38.3%、中学2年生保護者で40.6%と特に多くなっています。「生活困難層」では、「パート・アルバイト」が全体よりも11.7ポイント多くなっています。前回調査と比較すると全体では「正社員・正規職員」が9.8ポイント増加し、「パート・アルバイト」が7.7ポイント減少しています。
- 父親については、全体では「正社員・正規職員」が小学5年生保護者で83.5%、中学2年生保護者で84.8%ですが、「生活困難層」では、「正社員・正規社員」が小学5年生保護者で37.5%、中学2年生保護者で15.4%と著しく低く、「自営業・家業」や「パート・アルバイト」、中学2年生保護者では「働いていない」が全体と比較すると多くなっています。前回調査から大きく傾向が変化している項目はありません。

【保護者の就労状況】

(母親)

上段(人) 下段(%)										
		調査数	正社員・正規社員	パート・アルバイト	契約社員・非正規社員	人材派遣会社からの派遣社員	自営業・家業	その他の職業	働いていない	無回答
小学5年生	全体	491	139	188	17	12	22	5	105	3
			28.3	38.3	3.5	2.4	4.5	1.0	21.4	0.6
	生活困難層	24	1	12	1	0	3	0	5	2
			4.2	50.0	4.2	0.0	12.5	0.0	20.8	8.3
	中間層	89	8	42	4	2	4	2	27	0
			9.0	47.2	4.5	2.2	4.5	2.2	30.3	0.0
	非該当層	363	127	129	12	10	12	3	70	0
			35.0	35.5	3.3	2.8	3.3	0.8	19.3	0.0
中学2年生	全体	244	67	99	10	8	8	4	42	6
			27.5	40.6	4.1	3.3	3.3	1.6	17.2	2.5
	生活困難層	13	4	6	1	0	0	0	1	1
			30.8	46.2	7.7	0.0	0.0	0.0	7.7	7.7
	中間層	38	7	20	1	3	0	0	6	1
			18.4	52.6	2.6	7.9	0.0	0.0	15.8	2.6
	非該当層	186	52	72	8	5	8	4	35	2
			28.0	38.7	4.3	2.7	4.3	2.2	18.8	1.1

(父親)

上段(人) 下段(%)										
		調査数	正社員・正規社員	パート・アルバイト	契約社員・非正規社員	人材派遣会社からの派遣社員	自営業・家業	その他の職業	働いていない	無回答
小学5年生	全体	491	410	6	4	1	48	3	4	15
			83.5	1.2	0.8	0.2	9.8	0.6	0.8	3.1
	生活困難層	24	9	3	2	0	7	1	0	2
			37.5	12.5	8.3	0.0	29.2	4.2	0.0	8.3
	中間層	89	64	2	1	0	15	1	1	5
			71.9	2.2	1.1	0.0	16.9	1.1	1.1	5.6
	非該当層	363	326	1	0	1	25	1	3	6
			89.8	0.3	0.0	0.3	6.9	0.3	0.8	1.7
中学2年生	全体	244	207	1	0	0	18	2	2	14
			84.8	0.4	0.0	0.0	7.4	0.8	0.8	5.7
	生活困難層	13	2	0	0	0	1	2	1	7
			15.4	0.0	0.0	0.0	7.7	15.4	7.7	53.8
	中間層	38	29	0	0	0	2	0	1	6
			76.3	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	2.6	15.8
	非該当層	186	170	1	0	0	15	0	0	0
			91.4	0.5	0.0	0.0	8.1	0.0	0.0	0.0

<調査結果>

- お金が足りなくて食料や衣料を買えなかった経験が「よくあった」「時々あった」家庭は全体では小学5年生保護者が8.3%、中学2年生保護者が9.5%ですが、「生活困難層」では小学5年生保護者が45.8%、中学2年生保護者が46.2%となっています。
- 過去1年間に経済的な理由のために公共料金等を支払えなかった経験が「あった」家庭は、『電話料金』で全体では小学5年生保護者が1.2%、中学2年生保護者が1.6%ですが、「生活困難層」では小学5年生保護者が12.5%、中学2年生保護者が23.1%となっています。『電気料金』『ガス料金』『水道料金』『家賃』『税金・国民健康保険税』でも同様の結果となっています。

【お金が足りなくて、家族が必要とする食料
または衣類が買えない経験の有無】

		上段(人) 下段(%)					
		調査 数	よく あった	とき どき あった	な か つ た	無 回 答	
小学5年生	全体	491	7	34	448	2	
			1.4	6.9	91.2	0.4	
	生活困難層	24	2	9	13	0	
			8.3	37.5	54.2	0.0	
	中間層	89	2	8	79	0	
			2.2	9.0	88.8	0.0	
	非該当層	363	2	16	343	2	
			0.6	4.4	94.5	0.6	
中学2年生	全体	244	6	17	220	1	
			2.5	7.0	90.2	0.4	
	生活困難層	13	4	2	7	0	
			30.8	15.4	53.8	0.0	
	中間層	38	1	8	29	0	
			2.6	21.1	76.3	0.0	
	非該当層	186	1	6	179	0	
			0.5	3.2	96.2	0.0	

【過去1年間に経済的な理由のために
『電話料金』を支払えなかった経験】

		上段(人) 下段(%)					
		調査 数	あ つ た	な か つ た	(払 う 必 要 が な い)	無 回 答	
小学5年生	全体	491	6	476	7	2	
			1.2	96.9	1.4	0.4	
	生活困難層	24	3	20	0	1	
			12.5	83.3	0.0	4.2	
	中間層	89	2	87	0	0	
			2.2	97.8	0.0	0.0	
	非該当層	363	1	354	7	1	
			0.3	97.5	1.9	0.3	
中学2年生	全体	244	4	238	1	1	
			1.6	97.5	0.4	0.4	
	生活困難層	13	3	9	1	0	
			23.1	69.2	7.7	0.0	
	中間層	38	1	37	0	0	
			2.6	97.4	0.0	0.0	
	非該当層	186	0	186	0	0	
			0.0	100	0.0	0.0	

<調査結果>

- 将来の教育費の準備状況は、「十分準備ができている」は全体では小学5年生保護者が12.8%、中学2年生保護者が18.9%、「準備を始めている」は小学5年生保護者が63.5%、中学2年生保護者が62.7%となっています。「まったく準備できていない」は「生活困難層」で小学5年生保護者が66.7%、中学2年生保護者が53.8%となっています。

<傾向と課題>

- 「生活困難層」が将来の教育費を「まったく準備できていない」理由として、経済的に日々の生活で精一杯だから以外にも「こどもの将来をあまり考えられていない(精神的にも余裕がない)」や「どの程度教育費が必要かがわからない」等の理由も考えられます。保護者への啓発もそうですが、こども自身にもかかるお金やそれに対する支援、また 将来自分が親になった時のお金の話等を学校等で教えることも検討できると良いかと思います。

		調査数	十分準備できている	準備を始めている	まったく準備できていない	無回答
小学5年生	全体	491	63	312	116	0
			12.8	63.5	23.6	0.0
	生活困難層	24	0	8	16	0
			0.0	33.3	66.7	0.0
	中間層	89	4	47	38	0
			4.5	52.8	42.7	0.0
	非該当層	363	55	248	60	0
			15.2	68.3	16.5	0.0
中学2年生	全体	244	46	153	43	2
			18.9	62.7	17.6	0.8
	生活困難層	13	0	6	7	0
			0.0	46.2	53.8	0.0
	中間層	38	5	16	16	1
			13.2	42.1	42.1	2.6
	非該当層	186	40	126	20	0
			21.5	67.7	10.8	0.0

(2)生活・子育ての状況

<調査結果>

- 家庭でのこどもと保護者の関わりの状況は、「お子さんができたことや頑張ったことをほめて、一緒に喜ぶ」が「毎日ある」割合は、小学5年生保護者が32.2%、中学2年生保護者が19.3%となっています。前回調査と比較すると小学5年生保護者が8.3ポイント増加し、中学2年生保護者が0.7ポイント減少しています。前回調査では、中間層でやや割合が低くなっていましたが、今回は逆で、中間層は前回調査よりも17.7ポイント増加しています。

<傾向と課題>

- 生活・子育ての状況は、全体と生活困難層で有意な差があるものは少なく、「お子さんと将来の夢について話す」「お子さんの学校での出来事について、じっくり耳を傾ける応じる」は小学5年生では全体よりも生活困難層の方が高い傾向にありました。

【家庭でのこどもと保護者の関わりの状況】

(お子さんができたことや頑張ったことをほめて、一緒に喜ぶ)

		上段(人) 下段(%)					
		調査数	毎日ある	週に3〜4回	週に1〜2回	まったくない	無回答
小学5年生	全体	491	158	199	130	4	0
			32.2	40.5	26.5	0.8	0.0
	生活困難層	24	7	8	8	1	0
			29.2	33.3	33.3	4.2	0.0
	中間層	89	31	37	20	1	0
			34.8	41.6	22.5	1.1	0.0
	非該当層	363	113	150	98	2	0
			31.1	41.3	27.0	0.6	0.0
中学2年生	全体	244	47	101	88	6	2
			19.3	41.4	36.1	2.5	0.8
	生活困難層	13	2	7	3	0	1
			15.4	53.8	23.1	0.0	7.7
	中間層	38	5	16	14	3	0
			13.2	42.1	36.8	7.9	0.0
	非該当層	186	40	76	66	3	1
			21.5	40.9	35.5	1.6	0.5

<調査結果>

- 子育てについての悩みがある割合は(何らかの悩みの項目に○をつけた人の割合)は、全体では小学5年生保護者、中学2年生保護者ともに61％程度で、前回調査から6ポイント程度上がっています。「生活困難層」では小学5年生保護者が66.7%、中学2年生保護者が69.2%何らかの悩みを抱えていて、特に小学5年生保護者は「子どもの友達関係やいじめ」「家族間での教育方針の違い」が、中学2年生保護者は「子どもの反抗や暴言・暴力」「家族間での教育方針の違い」が全体よりも生活困難層の方が高くなっています。

<傾向と課題>

- 小学5年生保護者ではこどもの友人関係に関連して、中学2年生保護者ではこども本人に関連して悩みを抱えている割合が高くなっています。ニーズ調査でも 就学前保護者と比べて、小学生保護者はこどもやこどもとの友人との関わりに悩むケースが多く、また相談先もないと回答している割合が高くなっていました。こういった悩みに対する相談体制の充実は重要だと考えられます。

【子育てについての悩み】

上段(人) 下段(%)														
		調査数	子どもと過ごす時間がない	子どもとの関わり方	子どもの病気や障害	子どもの反抗や暴言・暴力	子どもの不登校や引きこもり	子どもの友達関係やいじめ	他の保護者との関係	学校の先生との関係	家族間での教育方針の違い	その他	特に悩みはない	無回答
小学5年生	全体	491	65	158	50	68	21	70	29	20	25	63	190	1
			13.2	32.2	10.2	13.8	4.3	14.3	5.9	4.1	5.1	12.8	38.7	0.2
	生活困難層	24	4	6	2	4	2	6	2	1	4	4	8	0
			16.7	25.0	8.3	16.7	8.3	25.0	8.3	4.2	16.7	16.7	33.3	0.0
	中間層	89	11	25	10	14	7	12	4	7	4	12	36	0
			12.4	28.1	11.2	15.7	7.9	13.5	4.5	7.9	4.5	13.5	40.4	0.0
	非該当層	363	49	117	37	49	12	48	22	11	16	45	144	0
			13.5	32.2	10.2	13.5	3.3	13.2	6.1	3.0	4.4	12.4	39.7	0.0
中学2年生	全体	244	21	62	25	24	17	26	9	16	13	37	94	3
			8.6	25.4	10.2	9.8	7.0	10.7	3.7	6.6	5.3	15.2	38.5	1.2
	生活困難層	13	1	3	1	2	0	0	1	1	2	5	4	0
			7.7	23.1	7.7	15.4	0.0	0.0	7.7	7.7	15.4	38.5	30.8	0.0
	中間層	38	2	8	8	7	3	6	1	5	1	4	15	0
			5.3	21.1	21.1	18.4	7.9	15.8	2.6	13.2	2.6	10.5	39.5	0.0
	非該当層	186	15	47	15	14	12	20	7	9	10	28	74	0
			8.1	25.3	8.1	7.5	6.5	10.8	3.8	4.8	5.4	15.1	39.8	0.0

<調査結果>

- 子育てについての相談相手・相談先として「こどもの勉強や学校に関する相談」は、全体では「家族」が小学5年生保護者で82.5%、中学2年生保護者で85.2%、「身近な人」が小学5年生保護者で71.9%、中学2年生保護者で70.1%となっています。「生活困難層」の小学5年生保護者は「家族」が全体よりも11.7ポイント低く、「子どもの通う学校の先生」の割合が8.7ポイント、「相談できる人はいない」が8.8ポイント高くなっています。「生活困難層」の中学2年生保護者は「身近な人」が全体よりも8.6ポイント低く、「子どもの通う学校の先生」が19.4ポイント高くなっています。
- 「こどもの健康や発育に関する相談」は、「家族」が小学5年生保護者・中学2年生保護者ともに87%程度となっています。「生活困難層」の小学5年生保護者は「身近な人」が全体よりも9.2ポイント低く、中学2年生保護者は「こどもの通う学校の先生」が全体の2倍程度高くなっています。

<傾向と課題>

- 相談相手・相談先として、「生活困難層」ほど「こどもの通う学校の先生」の割合が高くなる傾向にあります。学校への専門家派遣や常駐を強化し、学校側の過度な負担にならないようにしながら、一種のセーフティネットとしての機能を強化していくことが重要だと考えられます。

【子育てについての相談相手・相談先】

(こどもの勉強や学校に関する相談)

		調査数		相談できる人はいない		無回答	
		上段(人)	下段(%)	上段(人)	下段(%)	上段(人)	下段(%)
小学5年生	全体	491	405	353	162	20	18
			82.5	71.9	33.0	4.1	3.7
	生活困難層	24	17	16	10	0	3
			70.8	66.7	41.7	0.0	12.5
	中間層	89	75	70	30	4	1
			84.3	78.7	33.7	4.5	1.1
	非該当層	363	302	258	116	16	13
			83.2	71.1	32.0	4.4	3.6
中学2年生	全体	244	208	171	84	4	8
			85.2	70.1	34.4	1.6	3.3
	生活困難層	13	11	8	7	1	1
			84.6	61.5	53.8	7.7	7.7
	中間層	38	30	26	12	0	2
			78.9	68.4	31.6	0.0	5.3
	非該当層	186	161	133	64	3	5
			86.6	71.5	34.4	1.6	2.7

(こどもの健康や発育に関する相談)

		調査数		相談できる人はいない		無回答	
		上段(人)	下段(%)	上段(人)	下段(%)	上段(人)	下段(%)
小学5年生	全体	491	428	323	71	34	12
			87.2	65.8	14.5	6.9	2.4
	生活困難層	24	19	18	3	1	2
			79.2	75.0	12.5	4.2	8.3
	中間層	89	78	62	15	5	2
			87.6	69.7	16.9	5.6	2.2
	非該当層	363	320	236	51	27	8
			88.2	65.0	14.0	7.4	2.2
中学2年生	全体	244	213	156	35	13	9
			87.3	63.9	14.3	5.3	3.7
	生活困難層	13	11	8	1	0	1
			84.6	61.5	7.7	0.0	7.7
	中間層	38	28	25	9	1	3
			73.7	65.8	23.7	2.6	7.9
	非該当層	186	168	119	25	12	5
			90.3	64.0	13.4	6.5	2.7

<調査結果>

- 公的機関への相談状況として「市役所・福祉事務所の窓口」に「相談する」は全体では小学5年生保護者が35.2%、中学2年生保護者が38.9%となっています。「生活困難層」の小学5年生保護者が「相談する」割合は全体よりも10.2ポイント低く、前回調査よりも14.6ポイント減少しています。「生活困難層」の中学2年生保護者が「相談する」割合は全体よりも22.6ポイント高く、前回調査よりも35.2ポイント増加しています。
- 「こどもが通う学校の先生」に「相談する」は全体では小学5年生保護者が57.0%、中学2年生保護者が61.5%となっています。「生活困難層」の小学5年生保護者が「相談する」割合は全体よりも5.5ポイント、前回調査よりも16.7ポイント、中学2年生保護者が15.4ポイント、前回調査よりも45.3ポイント高くなっています。

<傾向と課題>

- 「生活困難層」ほど 公的機関へ相談する事項は多いと考えられますが、特に小学5年生では4人に1人しか相談できておらず、中学2年生では全体より多いものの4割程度が相談できていません。市役所・福祉事務所の窓口以外からの相談への繋げ方もより強化していく必要がありそうです。
- 他の設問と同様に、学校現場の負担軽減に取り組みつつ、学校のセーフティネット機能を強化することが有効であると考えます。

【公的機関への相談状況】

(市役所・福祉事務所の窓口)

		上段(人) 下段(%)			
		調査数	相談する	相談しない	無回答
小学5年生	全体	491	173	316	2
			35.2	64.4	0.4
	生活困難層	24	6	18	0
			25.0	75.0	0.0
	中間層	89	29	60	0
			32.6	67.4	0.0
中学2年生	全体	363	131	231	1
			36.1	63.6	0.3
	生活困難層	13	8	5	0
			61.5	38.5	0.0
	中間層	38	15	23	0
			39.5	60.5	0.0
非該当層		186	70	114	2
			37.6	61.3	1.1

(こどもが通う学校の先生)

		上段(人) 下段(%)			
		調査数	相談する	相談しない	無回答
小学5年生	全体	491	280	207	4
			57.0	42.2	0.8
	生活困難層	24	15	9	0
			62.5	37.5	0.0
	中間層	89	50	38	1
			56.2	42.7	1.1
中学2年生	全体	363	209	153	1
			57.6	42.1	0.3
	生活困難層	13	10	3	0
			76.9	23.1	0.0
	中間層	38	27	11	0
			71.1	28.9	0.0
非該当層		186	108	77	1
			58.1	41.4	0.5

(3)こどもの生活習慣・学習の状況

<調査結果>

- こどもの朝食の摂取状況として、「毎日食べる」は小学5年生92.1%、中学2年生88.1%となっています。「生活困難層」の小学5年生は全体よりも12.9ポイント、中学2年生は18.9ポイント低くなっています。
- 歯みがきの状況として、「必ず磨いている」は小学5年生17.7%、中学2年生18.4%となっています。前回調査と比較すると小学5年生は4.0ポイント、中学2年生は5.0ポイント低くなっています。小学5年生では「生活困難層」の方が「必ず磨いている」割合が11.5ポイント高いです。

<傾向と課題>

- 「生活困難層」は小学5年生が2割程度、中学2年生が3割程度朝食を食べる日と食べない日両方があります。改めて朝食の重要性の啓発等も有効かと考えられます。

【こどもの朝食の摂取状況】

				上段(人) 下段(%)			
		調査数	毎日食べる	食べない方が多い (週4~6日)	食べない方が多い (週1~3日)	ほとんど食べない	無回答
小学5年生	全体	491	452	28	9	1	1
			92.1	5.7	1.8	0.2	0.2
	生活困難層	24	19	3	2	0	0
			79.2	12.5	8.3	0.0	0.0
	中間層	89	81	6	2	0	0
			91.0	6.7	2.2	0.0	0.0
	非該当層	363	338	19	5	1	0
			93.1	5.2	1.4	0.3	0.0
中学2年生	全体	244	215	20	6	3	1
			88.1	8.2	2.5	1.2	0.4
	生活困難層	13	9	3	0	1	0
			69.2	23.1	0.0	7.7	0.0
	中間層	38	33	3	2	0	0
			86.8	7.9	5.3	0.0	0.0
	非該当層	186	167	14	4	1	0
			89.8	7.5	2.2	0.5	0.0

【歯みがきの状況】

				上段(人) 下段(%)			
		調査数	必ず磨いている	たいてい磨いている	ほとんど磨いていない	まったく磨いていない	わからない
小学5年生	全体	491	87	293	100	6	3
			17.7	59.7	20.4	1.2	0.6
	生活困難層	24	7	13	3	1	0
			29.2	54.2	12.5	4.2	0.0
	中間層	89	11	56	19	2	1
			12.4	62.9	21.3	2.2	1.1
	非該当層	363	69	214	74	3	2
			19.0	59.0	20.4	0.8	0.6
中学2年生	全体	244	45	144	42	7	5
			18.4	59.0	17.2	2.9	2.0
	生活困難層	13	2	7	2	1	1
			15.4	53.8	15.4	7.7	7.7
	中間層	38	2	26	9	1	0
			5.3	68.4	23.7	2.6	0.0
	非該当層	186	38	109	30	5	4
			20.4	58.6	16.1	2.7	2.2

<調査結果>

- 「落ち着いて勉強できる環境の有無」は全体では小学5年生が88.8%、中学2年生が92.2%ですが、「生活困難層」では小学5年生が75.0%、中学2年生が76.9%となっており、全体と比較すると小学5年生が13.8ポイント、中学2年生が15.3ポイント低くなっています。

<傾向と課題>

- 落ち着いた学習環境が「生活困難層」には整っていないことが多く、こどもヒアリングでも児童館等への要望で「学習/自習スペースの確保」があがっていたことも踏まえ、市として何か取り組めないか検討する必要があります。

【落ち着いて勉強できる環境の有無】

		上段(人) 下段(%)			
		調査数	ある	ない	無回答
小学5年生	全体	491	436	55	0
			88.8	11.2	0.0
	生活困難層	24	18	6	0
			75.0	25.0	0.0
	中間層	89	76	13	0
			85.4	14.6	0.0
	非該当層	363	329	34	0
			90.6	9.4	0.0
中学2年生	全体	244	225	18	1
			92.2	7.4	0.4
	生活困難層	13	10	2	1
			76.9	15.4	7.7
	中間層	38	34	4	0
			89.5	10.5	0.0
	非該当層	186	174	12	0
			93.5	6.5	0.0

(4)こどもの放課後の過ごし方

<調査結果>

- 放課後の過ごし方は、「自分の家で、家族と過ごす」ことが「多い」割合は全体では小学5年生が79.1%、中学2年生が79.1%でした。中学2年生になると「学習塾で先生や友達と過ごす」が全体では42.2%と高くなっていますが、「生活困難層」の中学2年生は11.1%と全体よりも31.1ポイント低くなっています。

【放課後 自分の家で、家族と過ごす】

		上段(人) 下段(%)			
		調査数	多い	多かったくない・多かった	無回答
小学5年生	全体	535	423	108	1
			79.1	20.2	0.2
	生活困難層	9	7	2	0
			77.8	22.2	0.0
	中間層	29	23	5	0
			79.3	17.2	0.0
	非該当層	144	114	30	1
			79.2	20.8	0.7
中学2年生	全体	535	423	108	4
			79.1	20.2	0.7
	生活困難層	9	7	2	0
			77.8	22.2	0.0
	中間層	29	23	5	1
			79.3	17.2	3.4
	非該当層	144	114	30	0
			79.2	20.8	0.0

【放課後 学習塾で先生や友達と過ごす】

		上段(人) 下段(%)			
		調査数	多い	多かったくない・多かった	無回答
小学5年生	全体	354	91	260	3
			25.7	73.4	0.8
	生活困難層	14	4	10	0
			28.6	71.4	0.0
	中間層	62	13	48	1
			21.0	77.4	1.6
	非該当層	246	66	179	1
			26.8	72.8	0.4
中学2年生	全体	535	226	309	0
			42.2	57.8	0.0
	生活困難層	9	1	8	0
			11.1	88.9	0.0
	中間層	29	6	23	0
			20.7	79.3	0.0
	非該当層	144	62	82	0
			43.1	56.9	0.0

<調査結果>

- 帰宅後の過ごし方は、「勉強や宿題」を「する(「1時間未満」「1～2時間未満」「2～3時間未満」「3時間以上」の合計)」割合は全体では小学5年生が97.5%、中学2年生が81.9%でした。前回調査では中学2年生の「まったくしない」は8.0%だったのに対し、今回は17.9%と9.9ポイント増えています。
- 「テレビやDVD」を「見る(「1時間未満」「1～2時間未満」「2～3時間未満」「3時間以上」の合計)」割合は全体では小学5年生が93.5%、中学2年生が86.0%でした。「生活困難層」の中学2年生は「見る」が66.6%で、全体よりも19.4ポイント低くなっています。
- 「パソコン・スマートフォンなどでインターネットやゲーム」を「する(「1時間未満」「1～2時間未満」「2～3時間未満」「3時間以上」の合計)」割合は全体では小学5年生が87.2%、中学2年生が95.3%でした。前回調査では小学5年生の「まったくしない」は19.8%だったのに対し、今回は12.1%と7.7ポイント減っています。

【帰宅後 勉強や宿題をする】

		上段(人) 下段(%)							
		調査数	まったくしない	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	無回答	
小学5年生	全体	354	7	165	116	46	18	2	
			2.0	46.6	32.8	13.0	5.1	0.6	
	生活困難層	14	0	6	5	2	1	0	
			0.0	42.9	35.7	14.3	7.1	0.0	
	中間層	62	2	27	23	8	2	0	
			3.2	43.5	37.1	12.9	3.2	0.0	
非該当層	246	5	115	77	33	14	2		
		2.0	46.7	31.3	13.4	5.7	0.8		
	中学2年生	全体	535	96	216	133	74	15	1
				17.9	40.4	24.9	13.8	2.8	0.2
生活困難層		9	2	5	0	1	1	0	
			22.2	55.6	0.0	11.1	11.1	0.0	
中間層		29	7	9	10	3	0	0	
			24.1	31.0	34.5	10.3	0.0	0.0	
非該当層	144	17	58	45	19	4	1		
		11.8	40.3	31.3	13.2	2.8	0.7		

【帰宅後 テレビやDVDを見る】

		上段(人) 下段(%)						
		調査数	まったくしない	1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	無回答
小学5年生	全体	354	22	81	89	98	63	1
			6.2	22.9	25.1	27.7	17.8	0.3
	生活困難層	14	1	3	0	6	4	0
			7.1	21.4	0.0	42.9	28.6	0.0
	中間層	62	2	11	15	17	17	0
			3.2	17.7	24.2	27.4	27.4	0.0
非該当層	246	17	61	65	64	38	1	
		6.9	24.8	26.4	26.0	15.4	0.4	
中学2年生	全体	535	74	156	124	115	65	1
			13.8	29.2	23.2	21.5	12.1	0.2
	生活困難層	9	2	1	2	2	1	1
			22.2	11.1	22.2	22.2	11.1	11.1
	中間層	29	1	10	8	4	6	0
			3.4	34.5	27.6	13.8	20.7	0.0
	非該当層	144	19	37	36	36	16	0
			13.2	25.7	25.0	25.0	11.1	0.0

【帰宅後 パソコン・スマートフォンなどでインターネットやゲームをする】

		上段(人) 下段(%)							
		調査数	まったくしない	1時間未満	1 ～ 2時間未満	2 ～ 3時間未満	3時間以上	無回答	
小学5年生	全体	354	43	106	78	70	55	2	
			12.1	29.9	22.0	19.8	15.5	0.6	
	生活困難層	14	1	1	3	4	5	0	
			7.1	7.1	21.4	28.6	35.7	0.0	
	中間層	62	4	15	16	13	14	0	
			6.5	24.2	25.8	21.0	22.6	0.0	
非該当層	246	36	80	53	44	31	2		
		14.6	32.5	21.5	17.9	12.6	0.8		
	中学2年生	全体	535	25	66	109	155	180	0
				4.7	12.3	20.4	29.0	33.6	0.0
生活困難層		9	0	1	0	4	4	0	
			0.0	11.1	0.0	44.4	44.4	0.0	
中間層		29	0	3	5	9	12	0	
			0.0	10.3	17.2	31.0	41.4	0.0	
非該当層	144	5	20	35	42	42	0		
		3.5	13.9	24.3	29.2	29.2	0.0		

Ⅲ ヒアリング・アンケート調査結果

1. ヒアリング調査対象

(1)市内の小学生、中学生、高校生、大学生

種類	調査場所	実施日	対象数	調査方法
小学生	ねぎしだい児童館利用者	12月22日(金)	19人	グループ ヒアリング
	みぞぬま児童館利用者	1月9日(火)	21人	
	ひざおり児童館利用者	1月10日(水)	12人	
	溝沼放課後児童クラブ	4月22日(月)	9人	
中高生	ほんちょう児童館利用者	1月13日(土)	22人	
	朝霞市立第四中学校生徒	4月25日(木)	10人	
	埼玉県立朝霞高等学校生徒	4月22日(月)	22人	
大学生	アサカシティラボ参加者	1月27日(土)	21人	アンケート

(2)児童館利用者

種類	調査場所	実施日	対象数	調査方法
児童館利用者 (保護者)	きたはら児童館利用者	1月13日(土)	6人	グループ ヒアリング
	はまさき児童館利用者	1月13日(土)	6人	

(3)その他

種類	調査対象	実施日	対象数	調査方法
多胎児サークル	参加者	2月23日(土)	7人	アンケート
あさか子育てネットワーク	イベント参加者	2月20日(火)	4人	個別ヒアリング

2. ヒアリングの主な調査項目・結果の概要

(1)市内の小学生、中学生、高校生、大学生

◆主な調査項目

項目	内容
施設について	・児童館・放課後児童クラブの好きなところ、気に入っているところ ・通うようになったきっかけ ・もっと良くなるといいところ ・「ほんちょう児童館」の利用状況・利用した/しない感想 ・もっと良くなるといいところ(中学校・高校でのヒアリングのみ)
放課後の居場所	・放課後過ごしている場所 ・放課後過ごしたい場所
朝霞市について	・こどもにとって生活しやすいか ・市外の友達などに自慢したいところ ・もっと良くなるといいところ ・ずっと住んでいきたいか
相談窓口について	・相談窓口を知っているか ・相談しやすいか
地域活動について	・地域活動に参加したことがあるか ・地域活動に参加してみたいと思うか ・地域活動に参加できない理由や必要なこと
将来について	・将来のことを考えることはあるか、そのきっかけは何か ・将来 不安なことや知りたいことはあるか ・朝霞市で子育てをしたいと考えるか
普段の生活について	・困っていること、もっと良くなるといいところ

◆主な意見

項目	内容
施設について	小学生 ●児童館の好きなところ ・いろいろな遊びができる。 ・通いやすい、利用しやすい。友達との待ち合わせ場所にも使っている。 ●児童館のもっと良くなるといいところ ・ボール遊びができるような場所がほしい。 ・音楽スタジオがほしい。 ・高学年は携帯を触ってもいいことにしてほしい。 ●放課後児童クラブの好きなところ・気に入っているところ ・おもちゃや本がたくさんある、新しい雑誌が読める ・色々な遊びができる、外で遊べる、お誕生日会がある ・夏休みなどの長期休みには映画が観られる ・宿題ができる ●放課後児童クラブの通うようになったきっかけ ・親が働いているから
	中高生 (児童館ヒアリング) ●児童館の好きなところ ・友達や職員と交流できる、職員が優しい。 ・お菓子や食事をもらえることがあるのでうれしい。 ●もっと良くなるといいところ ・今の児童館が好きなので特に変わってほしいところはない。 ・20時まで開館している児童館を増やして欲しい。 ・小学生が使える部屋と、中高生が使える部屋を分けた方がお互い安心だと思う。

	中高生 (学校ヒアリング)	●利用状況 ・ほとんどの中学生・高校生が知っており、中学生は利用したことがある生徒が過半数だったが、高校生はほとんど利用したことがなかった。 ●感想 ・中学生専用地下室で楽器が演奏できるのが良い ・冷房が効いていて涼しい、綺麗 ・漫画がたくさんあって良い ●もっと良くなるといいところ ・遊戯室をもっと使いやすくしてほしい(ボール遊びできる場所が足りない、卓球の予約を柔軟にしてほしい) ・多目的スペースが1日使えるようにしてほしい ●利用しない理由 ・知らなかった ・人に見られて勉強するのが苦手だから ●どのような施設だったら利用したいか ・どのような施設かがわからないのでパンフレットがほしい ・個室の自習スペースがほしい ・ゲーム大会が開催されている ・Wi-Fi環境が整っている
放課後の居場所	小学生	●放課後 過ごしている場所 ・家 ・習い事 ・児童館 ・学校 ●あると良いところ ・水族館
	中高生	●過ごしている場所 ・ほとんどが部活動または生徒会活動だった ●あると良い場所 ・ショッピングモール ・勉強できる場所、集中できる自習スペース ・ボール遊びができる公園
朝霞市について	小学生	●こどもにとって生活しやすいか ・朝霞市は生活しやすい。 ●市外の友達などに自慢したいところ ・野菜がおいしい、自然が多い。 ・東京に近くて、遊びやすい。買い物しやすい。 ・治安が良い。 ●もっと良くなるといいところ ・観光スポットやボール遊びができる場所がほしい。 ・道路を整備してほしい。 ・公園の遊具や木を増やして欲しい。 ●ずっと住んでいたいのか ・ずっと住みたい(多数) ・東京に行きたい、と回答している児童もいた。
	中高生	●こどもにとって生活しやすいか ・電車の利便性は良いが、駅前には遊ぶところが少ない。 ・静かで住みやすい。 ●市外の友達などに自慢したいところ ・電車が多く、アクセスが良い。 ・雰囲気が明るい、自然が多い。 ●もっと良くなるといいところ ・街灯が欲しい、夜の道が危ない。歩道が狭い。 ・ボールで遊べる施設が少ない。 ・中学生以降遊べる場所が少ない。 ・囲碁や将棋等をやりたい人が集める場所が増えると良い。 ・イベントが少ない。 ●ずっと住んでいたいのか ・大人になったら別のところに住みたい。 ・住むのは朝霞市でもいいが、高校や就職先は朝霞市以外を考えている。

	大学生	●こどもにとって生活しやすいか ・生活しやすい(多数) ・都市に出やすい、交通の便が良い。 ・田舎と都会のちょうど良いバランス。 ●市外の友達などに自慢したいところ ・彩花祭(多数) ・治安が良い、都心に近く交通の便が良い。 ●もっと良くなるというところ ・自慢できるところがほしい。 ・医療費を高校まで無償化してほしい、妊娠出産への支援をしてほしい。 ●ずっと住んでいたい ・思う、結婚を考えた時に子育てしやすい環境だから。 ・思わない、キャリアを考えた時に海外へ挑戦したいと思う。
相談窓口	中高生	●相談窓口を知っているか ・ほとんどが知っていた(学校で配られる小さい冊子で知った)
地域活動について	中高生	●地域活動に参加したことがあるか・参加してみたいと思うか ・参加したことがある人が半数程度、参加したことがない人も参加してみたいと回答した人がほとんどだった。 ・学校で募集があったり、自発的に参加したりしていた。 ●地域活動に参加できない理由や必要なこと ・清掃以外のボランティアを知らない(清掃は衛生的に苦手) ・ボランティアは大人が多く、こどもが参加できるイメージがない
将来について	中高生	●将来のことを考えることはあるか、そのきっかけは何か ・卒業文集等で将来の夢を書いた時 ・総合学習の時間(職業体験や、進路について考える授業等) ・両親と話した時、兄妹の様子を見た時 ・ニュース等を見て ●将来 不安なことや知りたいことはあるか ・将来 日本がどうなるか不安 ・勉強や将来の職業について相談できる人がいない (実際にその進路をたどった人がいない) ・受験をした人(高校生)の話が聞きたい ●朝霞市で子育てをしたいと考えるか ・したいとはっきり回答したのは1人だった
普段の生活について	小学生	●困っていること、もっと良くなるというところ ・遊べるところをもっと増やして欲しい。 ・市内の他の学校と交流したい。
	中高生	●困っていること、もっと良くなるというところ ・体育館と公園の中間のような、気軽に運動できる場所がほしい。 ・朝霞市民が朝霞をもっと好きになるきっかけを増やしたい。 ・坂や道の整備を進めてほしい。

(2) 児童館利用者

◆主な調査項目(保護者)

項目	内容
施設について	・利用頻度、来館目的
遊ぶ場所	・利用する場所、気に入っている点 ・希望する場所等
市内の子育て環境 子育て支援について	・朝霞市は子育てしやすい所か、特に良いところ ・改善を希望する点 ・市内で子育てをしていきたいか ・困っていることや感じていること、希望など
相談機関・窓口等 について	・相談機関・窓口があることを知っているか ・利用しやすくなるために必要なこと

◆主な意見

項目	内容
施設について	●利用頻度、来館目的 ・利用頻度は毎日のように利用している人や月に数回等 様々であるが、定期利用している人が多い。 ・目的は、子どもの遊び場やイベント参加者、ママ友の情報交換等
遊ぶ場所	●利用する場所 ・公園、ショッピングセンター、(おもちゃ)図書館等 ●気に入っている点 ・色々な遊びができる(サッカー、風揚げ、砂場遊び等) ・職員がやさしい ●希望する場所等 ・おもちゃや本を増やして欲しい。 ・スペースや施設数をもっと増やして欲しい。 ・トイレを綺麗にしてほしい、駐車場を充実させてほしい。
市内の子育て環境 子育て支援について	●朝霞市は子育てしやすい所か、特に良いところ ・比較的子育てしやすい(多数)。 ・同世代のママが多く、子育て世帯が多く引っ越している。 ●改善を希望する点 ・保育園や学童保育に入れない(入れるか不安)。 ・歩道が狭い、車を運転していて危ないと感じる。 ・仕事が休みの日も子どもを預けられるようにしてほしい。 ●市内で子育てをしていきたいか ・ずっと朝霞市で子育てをしたいと思っている(多数) ●困っていることや感じていること、希望など ・朝霞市は転入者が多いので、転入者でもわかるように子育て関連の情報を取りまとめしてほしい。(取りまとめた情報には)子育て経験者の声や視点も反映させてほしい。サービスや施設一覧がほしい。 ・所得制限でサービスが受けられない、子育て支援サービスの対象にしてほしい。
相談機関・窓口等 について	●相談機関・窓口があることを知っているか ・利用したことがない(多数)。 ・保健センターや支援センター等で発達成長に関する相談をしたことがある。 ●利用しやすくなるために必要なこと ・今回のようなヒアリング調査を定期実施してほしい。 ・LINEやチャット等であれば相談しやすそう。 ・年齢に合わせた相談窓口があるのかを知りたい。

(3) その他

◆主な調査項目

項目	内容
サークル活動について	・参加頻度、参加目的
遊ぶ場所	・利用する場所、気に入っている点 ・希望する場所等
市内の子育て環境 子育て支援について	・朝霞市は子育てしやすい所か、特に良いところ ・改善を希望する点
相談機関・窓口等 について	・相談機関・窓口があることを知っているか ・利用しやすくなるために必要なこと

◆主な意見

項目	内容
サークル活動について	●参加頻度 ・毎月、2～3か月に1回等 定期的に参加している人が多い。 ●参加目的 ・子どもの遊び場や保護者同士の交流などが多い。
遊ぶ場所	●利用する場所 ・児童館や公園。 ●気に入っている点 ・近いところ、のびのび動けるところ。 ・イベントがたくさんあるところ。 ・おもちゃや本がたくさんあるところ。 ●希望する場所等 ・遊園地やこども動物園等 こども向けの施設。 ・駅前におむつ替えや授乳できるスペースが欲しい。
市内の子育て環境 子育て支援について	●朝霞市は子育てしやすい所か ・子育てしやすいという意見と、どちらとも言えないという意見が半々。 ●特に良いところ ・公園が多い。 ・子育て支援センターや児童館等の施設数が多い。 ●改善を希望する点 ・金銭的な補助。 ・子育て施設や支援をもう少し手厚くしてほしい。 ・一時預かりや病児の利用をしやすいしてほしい。
相談機関・窓口等 について	●相談機関・窓口があることを知っているか ・知っている人が多い。 ●利用しやすくなるために必要なこと ・もっと情報発信があると利用しやすい。 ・サービスについてもっと知りたい。

3. 妊娠中・出産後の方に向けたアンケート

■調査実施概要

①妊娠中の方

種類	配布場所	対象数	調査期間	調査方法
妊娠届を 提出された方	子育て世代 包括支援センター	配布数:115人 回収数:30人	1月4日(木)～ 1月31日(水)	直接配布 郵送又は WEB回収

②お子さんを出産された方

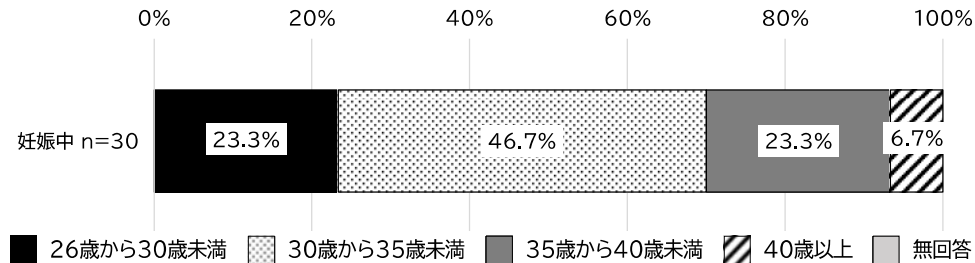
種類	配布場所	対象数	調査期間	調査方法
4か月健診を 受診されたお子さんの 保護者	保健センター	配布数:88人 回収数:40人	1月10日(水)、 1月24日(水)	直接配布 郵送又は WEB回収

(1)年齢

<妊娠中:問1>

あなたの年齢をお答えください。

妊娠中の方は「30歳から35歳未満」が46.7%と最も多く、次いで「26歳から30歳未満」と「35歳から40歳未満」がともに23.3%、「40歳以上」が6.7%となっています。



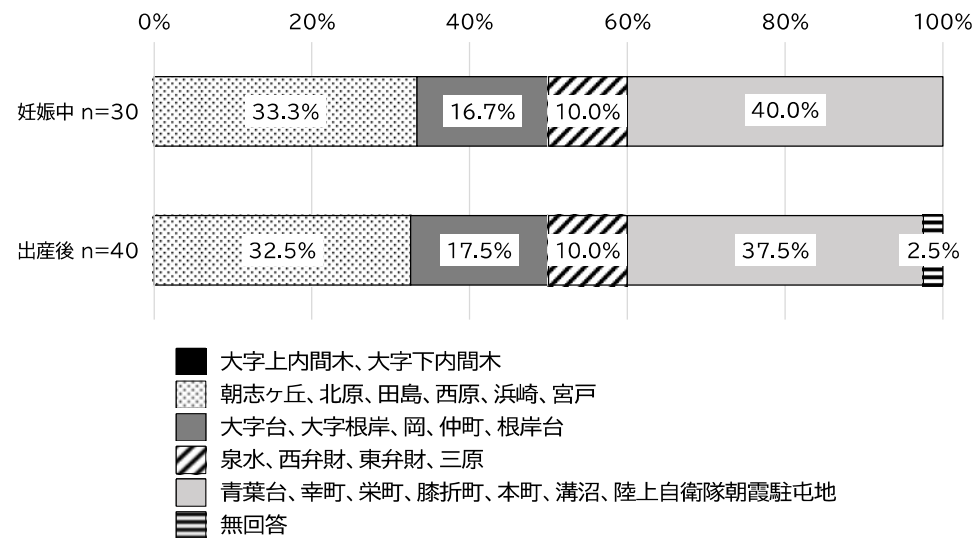
(2)居住地区

<妊娠中:問2、出産後:問1>

お住まいの地区をお答えください。(単数回答)

妊娠中の方は「青葉台、幸町、栄町、膝折町、本町、溝沼、陸上自衛隊朝霞駐屯地」が40.0%と最も多く、次いで「朝志ヶ丘、北原、田島、西原、浜崎、宮戸」が33.3%、「大字台、大字根岸、岡、仲町、根岸台」が16.7%、「泉水、西弁財、東弁財、三原」が10.0%となっています。

出産後の方は「青葉台、幸町、栄町、膝折町、本町、溝沼、陸上自衛隊朝霞駐屯地」が37.5%と最も多く、次いで「朝志ヶ丘、北原、田島、西原、浜崎、宮戸」が32.5%、「大字台、大字根岸、岡、仲町、根岸台」が17.5%、「泉水、西弁財、東弁財、三原」が10.0%となっています。

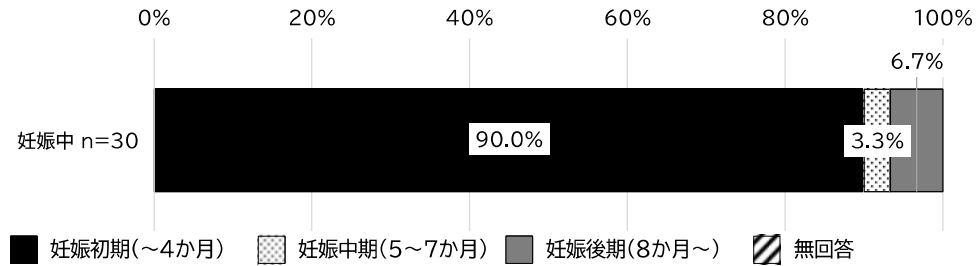


(3)妊娠経過期間

<妊娠中:問3>

妊娠経過についてお答えください。(単数回答)

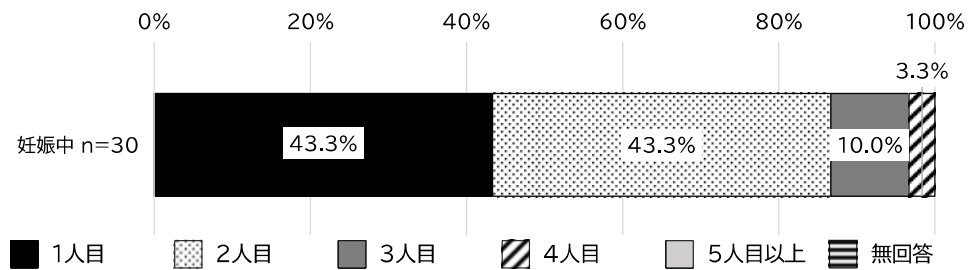
妊娠中の方は「妊娠初期(～4か月)」が90.0%と最も多く、次いで「妊娠後期(8か月～)」が6.7%、「妊娠中期(5～7か月)」が3.3%となっています。



<妊娠中:問4>

現在妊娠されているのは何人目のお子様ですか。(単数回答)

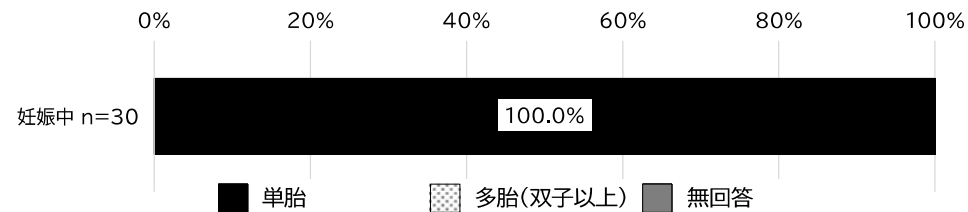
妊娠中の方は「1人目」と「2人目」がともに43.3%と最も多く、「3人目」が10%、「4人目」が3.3%となっています。



<妊娠中:問4-1>

単胎ですか多胎ですか。(単数回答)

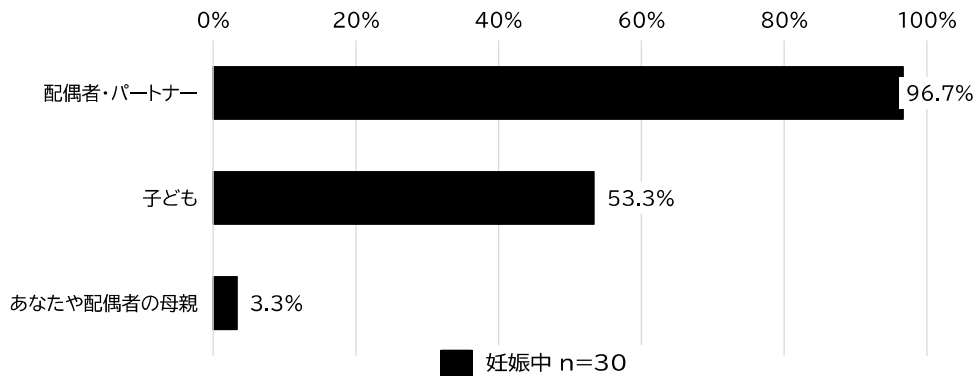
妊娠中の方は「単胎」が100.0%となっています。



<妊娠中:問5>

現在、あなたといっしょに暮らしているご家族は、どなたですか。(複数回答)

妊娠中の方は「配偶者・パートナー」が96.7%と最も多く、次いで「子ども」が53.3%、「あなたや配偶者の母親」が3.3%となっています。

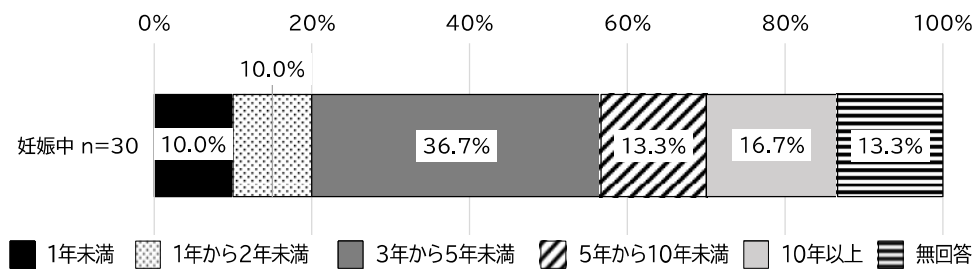


※「あなたや配偶者の父親」「あなたや配偶者の兄弟姉妹」「あなたや配偶者の祖父母」「その他」「いない」と回答した方は無かったため、図は省略している。

<妊娠中:問6>

あなたが朝霞市に住み始めて、何年になりますか。(単数回答)

妊娠中の方は「3年から5年未満」が36.7%と最も多く、次いで「10年以上」が16.7%、「5年から10年未満」が13.3%、「1年未満」が10.0%となっています。

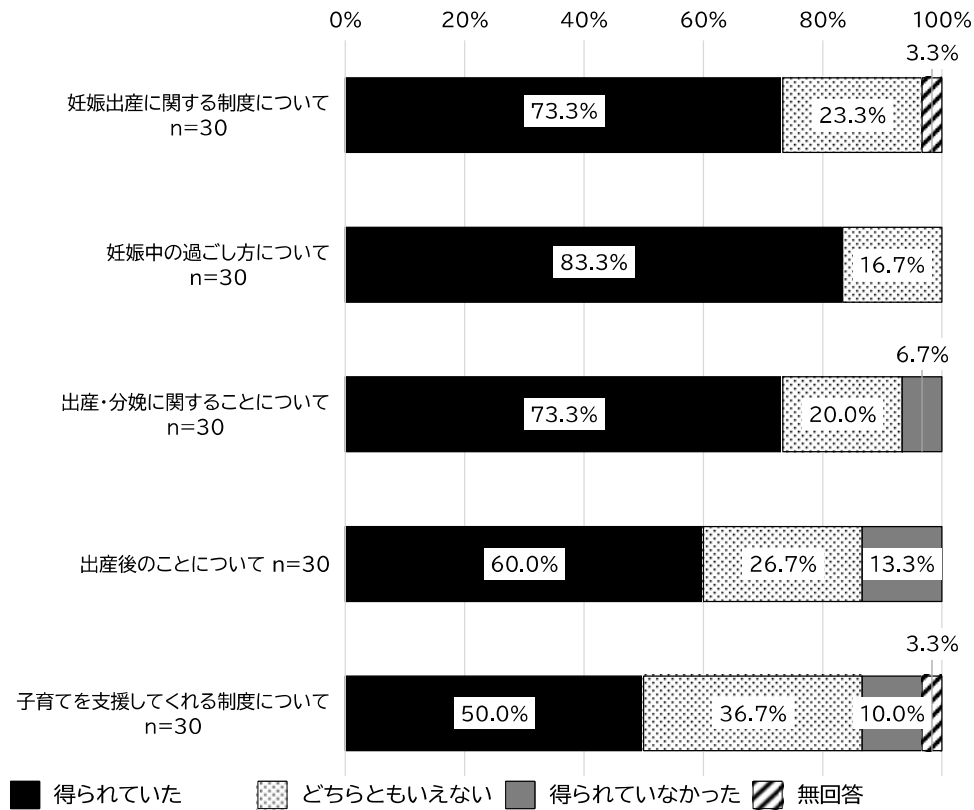


<妊娠中:問7、出産後:問2>

妊娠・出産に関する必要な情報は入手できていますか(単数回答)

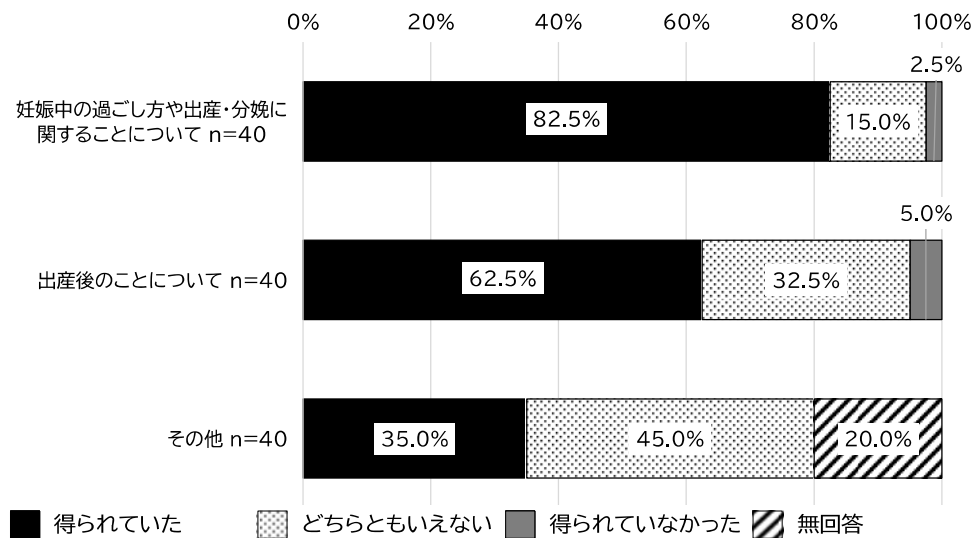
◆出産前

出産前の方は「妊娠中の過ごし方について」情報を得られていた場合が83.3%と最も多く、次いで「妊娠出産に関する制度について」と「出産・分娩に関することについて」が、それぞれ73.3%となっています。



◆出産後

出産後の方は「妊娠中の過ごし方や出産・分娩に関することについて」情報を得られていた場合が82.5%と最も多く、次いで「出産後のことについて」が62.5%、「その他」が35.0%となっています。



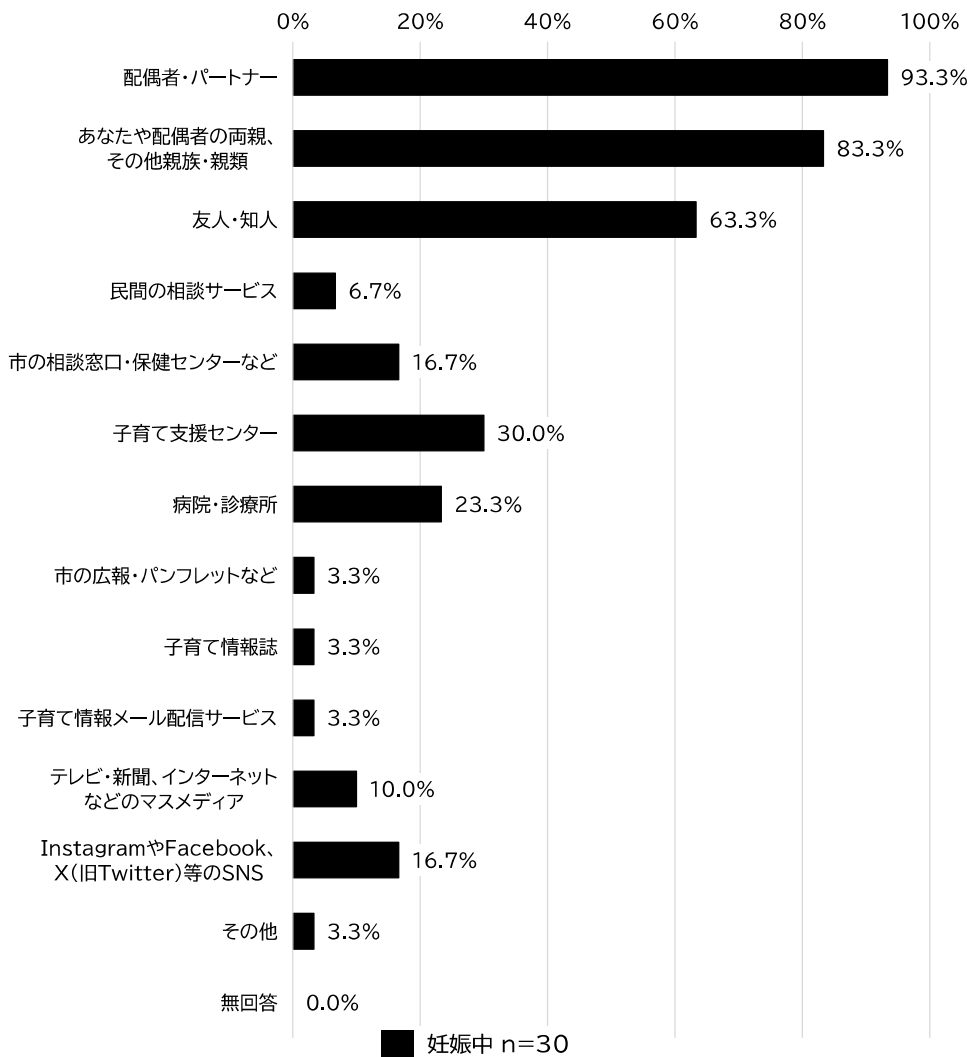
<妊娠中:問8>

出産や子育て・教育に関して、気軽に相談できる先は、誰(どこ)ですか。また、情報は何かから得ていますか(複数回答)

①相談先 ②情報源

①相談先

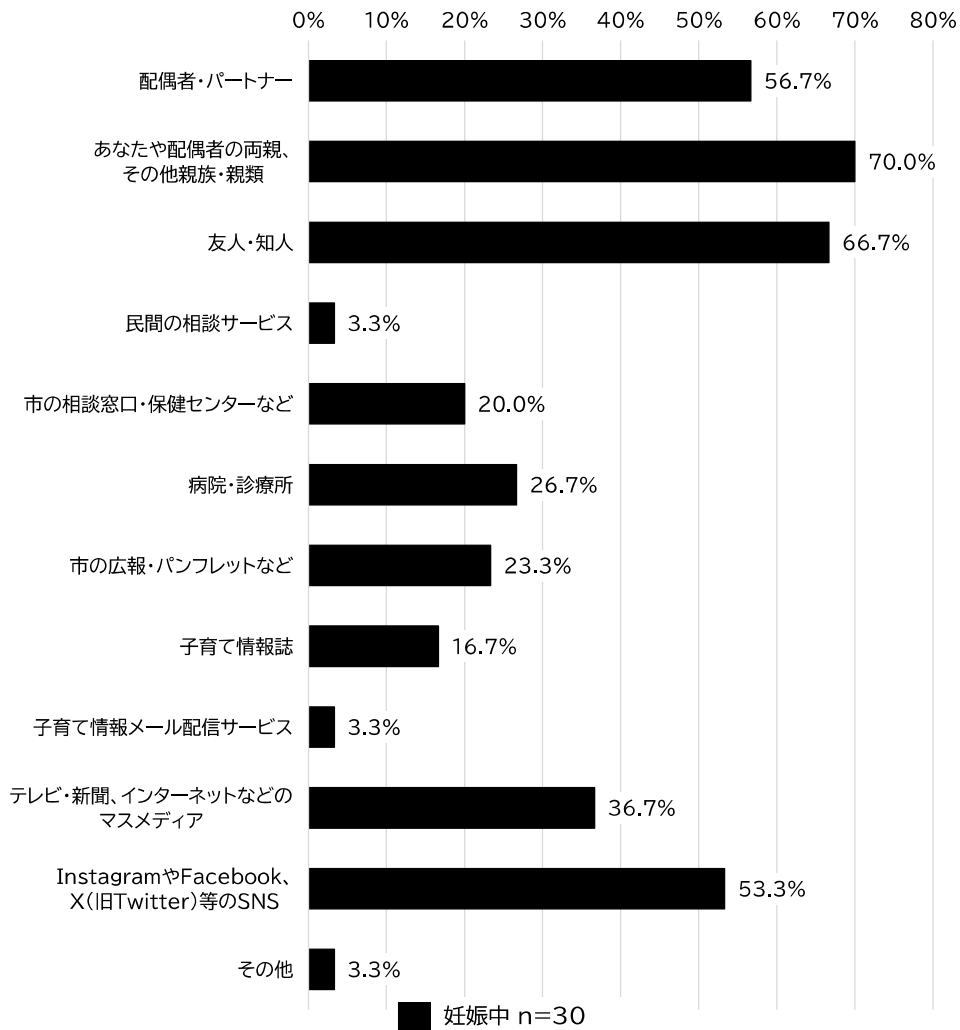
妊娠中の方は「配偶者・パートナー」が93.3%と最も多く、次いで「あなたや配偶者の両親、その他親族・親類」が83.3%、「友人・知人」が63.3%、「子育て支援センター」が30.0%、「病院・診療所」が23.3%となっています。



※「民生委員・児童委員」「そのような人(先)はない」と回答した方がいなかったため、図は省略している

②情報源

妊娠中の方は「あなたや配偶者の両親、その他親族・親類」が70.0%と最も多く、次いで「友人・知人」が66.7%、「配偶者・パートナー」が56.7%、「InstagramやFacebook、X(旧Twitter)等のSNS」が53.3%、「テレビ・新聞、インターネットなどのマスメディア」が36.7%となっています。

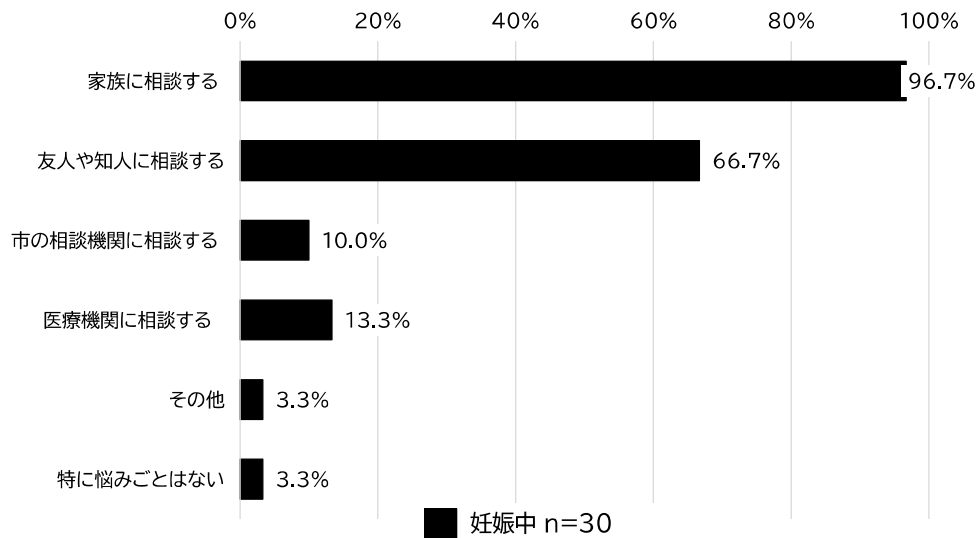


※「民生委員・児童委員」「そのような人(先)はない」と回答した方がいなかったため、図は省略している

<妊娠中:問9>

妊娠期や出産・子育てについて悩んだとき、どのように対応していますか。(複数回答)

妊娠中の方は「家族に相談する」が96.7%と最も多く、次いで「友人や知人に相談する」が66.7%、「医療機関に相談する」が13.3%、「市の相談機関に相談する」が10.0%、「その他」が3.3%となっています。



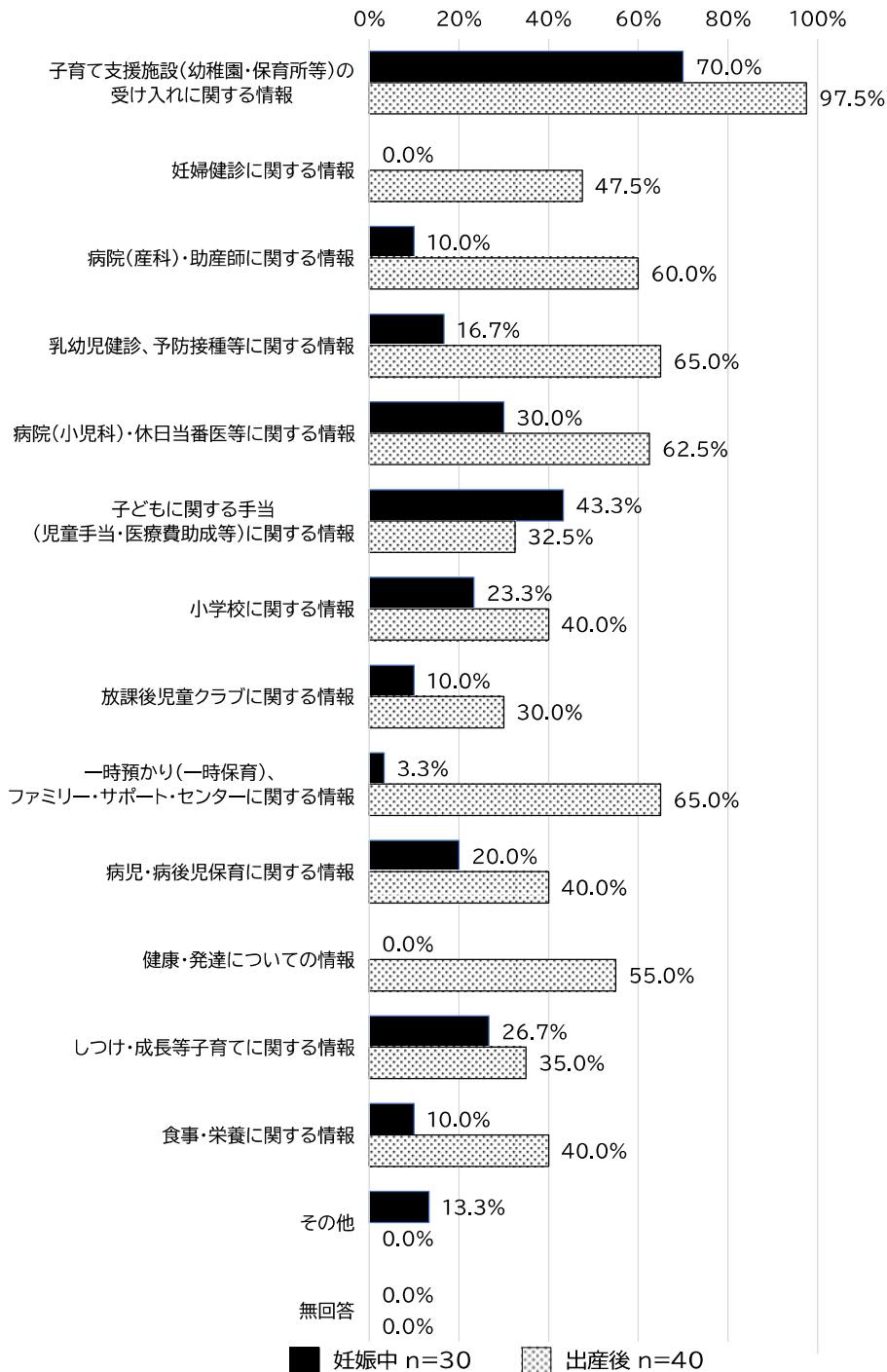
※「上の子どもの通う施設の職員に相談する」、「相談する相手がない」、「どこに相談したらよいかわからない」、「無回答」と回答の方がいなかったため、図は省略している

<妊娠中:問10、出産後:問3>

あなたは、どのような妊娠・出産・子育てに関する情報を知りたいと考えていますか。(複数回答、妊娠中は3つまで)

妊娠中の方は「子育て支援施設(幼稚園・保育所等)の受け入れに関する情報」が70%と最も多く、次いで「子どもに関する手当(児童手当・医療費助成等)に関する情報」が43.3%、「病院(小児科)・休日当番医等に関する情報」が30%、「しつけ・成長等子育てに関する情報」が26.7%、「小学校に関する情報」が23.3%となっています。

出産後の方は「子育て支援施設(幼稚園・保育所等)の受け入れに関する情報」が97.5%と最も多く、次いで「乳幼児健診、予防接種等に関する情報」と「一時預かり(一時保育)、ファミリー・サポート・センターに関する情報」がともに65%、「病院(小児科)・休日当番医等に関する情報」が62.5%、「病院(産科)・助産師に関する情報」が60.0%となっています。



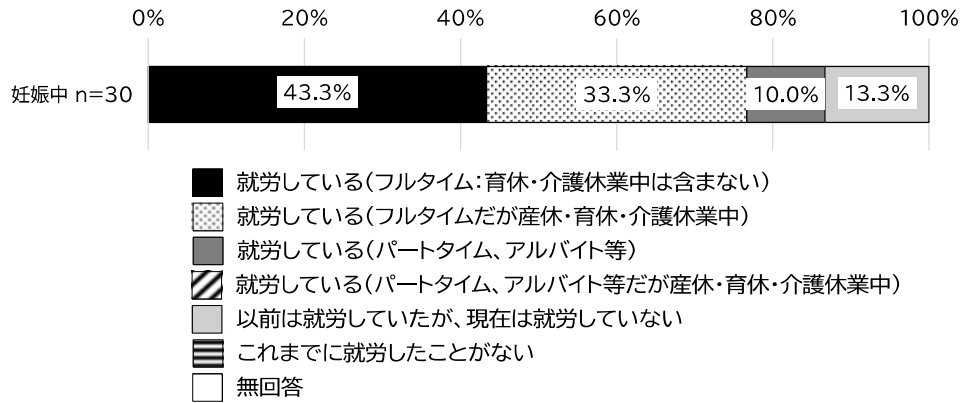
<妊娠中:問11>

あなたの現在の就労状況(自営業、家族従業者を含む)をお答えください。(単数回答)

※1日8時間程度・週5日程度の勤務日数・時間の場合は「フルタイム」、それ以外の場合は「パートタイム」として

てください。

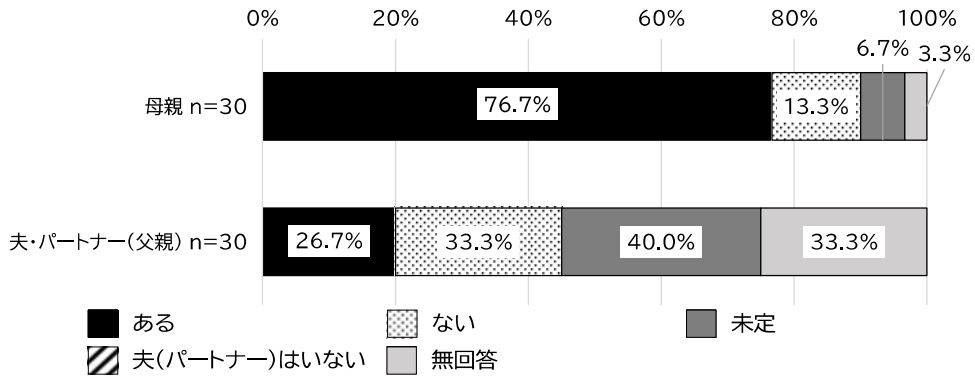
妊娠中の方は「就労している(フルタイム:育休・介護休業中は含まない)」が43.3%と最も多く、次いで「就労している(フルタイムだが産休・育休・介護休業中)」が33.3%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が13.3%、「就労している(パートタイム、アルバイト等)」が10.0%となっています。



<妊娠中:問12>

今回の出産後に、あなたや夫・パートナーは育児休業を取得する予定はありますか。あてはまるもの1つずつに○をつけ、「ある」場合は予定している期間もお答えください。

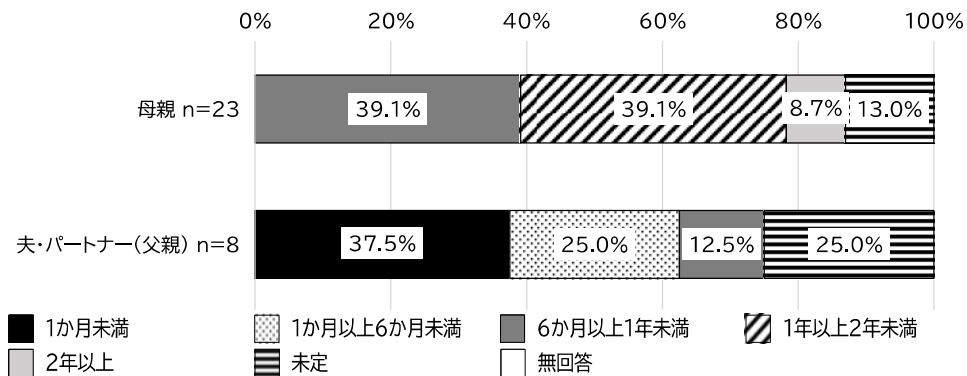
母親は「ある」が76.7%と最も多く、次いで「ない」が13.3%、「未定」が6.7%となっています。
夫・パートナー(父親)は「未定」が40.0%と最も多く、次いで「ない」が33.3%、「ある」が26.7%となっています。



予定期間

母親は「6か月以上1年未満」と「1年以上2年未満」がともに39.1%と最も多く、次いで「未定」が13.0%、「2年以上」が8.7%となっています。

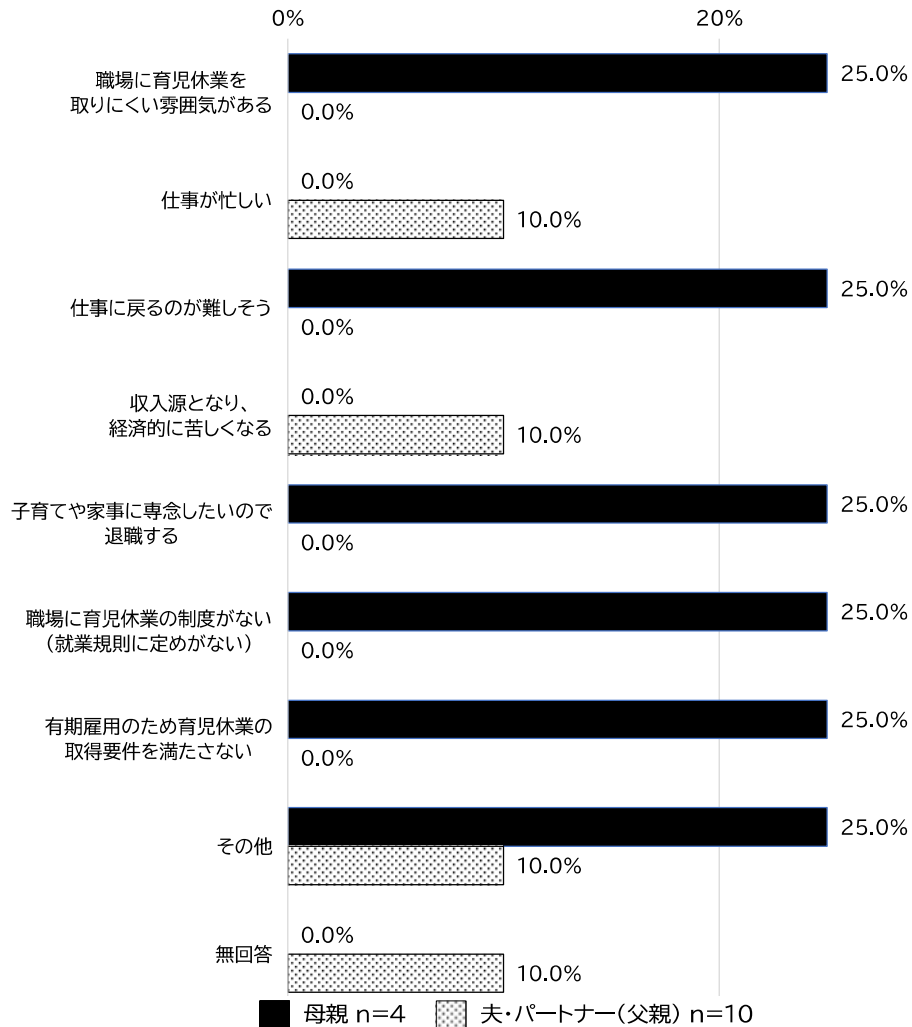
夫・パートナー(父親)は「1か月未満」が37.5%と最も多く、次いで「1か月以上6か月未満」と「未定」がともに25.0%、「6か月以上1年未満」が12.5%となっています。



育児休業を取得する予定がない理由

母親は「職場に育児休業を取りにくい雰囲気がある」、「仕事に戻るのが難しそう」、「子育てや家事に専念したいので退職する」、「職場に育児休業の制度がない(就業規則に定めがない)」、「有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさない」、「その他」がそれぞれ25.0%となっています。

夫・パートナー(父親)は「仕事が忙しい」、「収入源となり、経済的に苦しくなる」、「その他」がそれぞれ10.0%となっています。



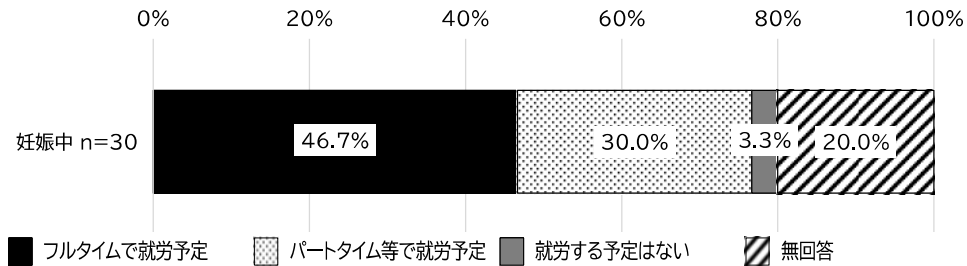
※「(産休後に)仕事に早く復帰したい」、「昇給・昇格などが遅れそう」、「保育所等に預けることができる」、「配偶者が育児休業制度を利用する」、「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がない」、「育児休業を取得できるか知らない、わからない」、「育児休業を取得できるか知らない、わからないので退職する」と回答した方がいなかったため、図は省略している

<妊娠中:問13>

今回の出産後に、あなたは就労する予定・希望はありますか。また、予定・希望がある場合は働き始めるお子様の年齢についてもご記入ください。(単数回答)

出産後の就労予定・希望

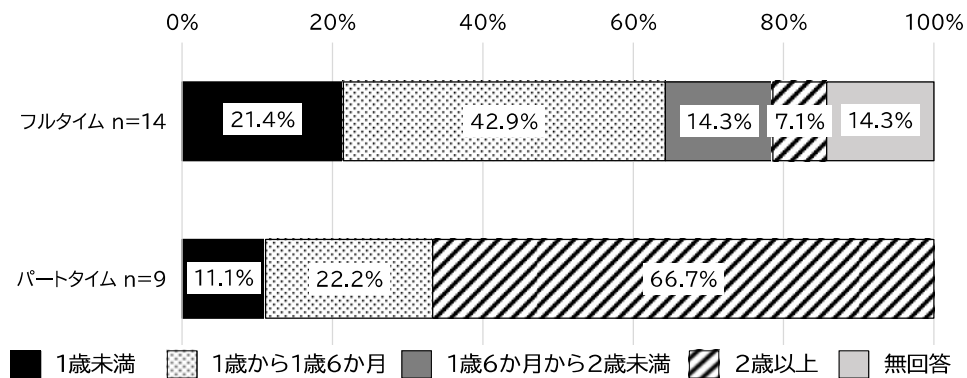
妊娠中の方は「フルタイムで就労予定」が46.7%と最も多く、次いで「パートタイム等で就労予定」が30.0%、「就労する予定はない」が3.3%となっています。



働き始めるお子様の年齢

「フルタイムで就労予定」と回答した方は「1歳から1歳6か月」が42.9%と最も多く、次いで「1歳未満」が21.4%、「1歳6か月から2歳未満」が14.3%、「2歳以上」が7.1%となっています。

「パートタイム等で就労予定」と回答した方は「2歳以上」が66.7%と最も多く、次いで「1歳から1歳6か月」が22.2%、「1歳未満」が11.1%となっています。

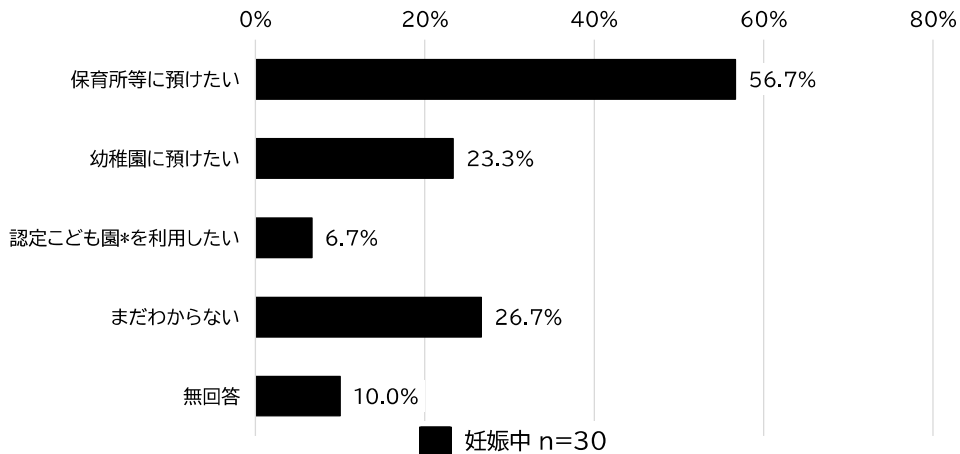


<妊娠中:問14>

現在妊娠しているお子様について、生後、幼稚園や保育所等に預けたいご意向はありますか。(複数回答)
また、「保育所等に預けたい」、「幼稚園に預けたい」、「認定こども園*を利用したい」を選んだ場合は預けたい
子どもの年齢についてもご記入ください。
*認定こども園…保育所と幼稚園の機能を併せ持った施設のこと。

出産後の就労予定・希望

母親は「保育所等に預けたい」が56.7%と最も多く、次いで「まだわからない」が26.7%、「幼稚園に預けたい」が23.3%、「認定こども園*を利用したい」が6.7%となっています。



※「小学校就学まで施設に預ける予定はない」、「その他」は回答者がいなかったため、図を省略している

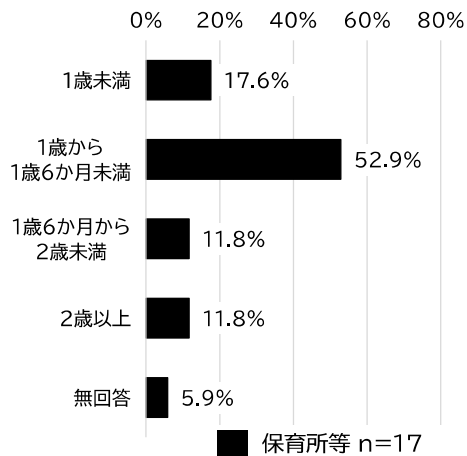
保育所等に預けたい年齢

<保育所等>

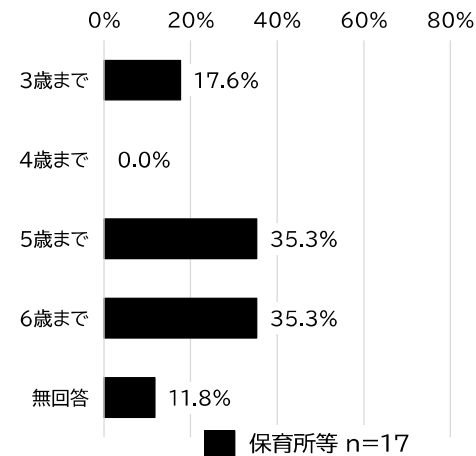
預け始めたい年齢は「1歳から1歳6か月未満」が52.9%と最も多く、次いで「1歳未満」が17.6%、「1歳6か月から2歳未満」と「2歳以上」がともに11.8%となっています。

預け終わりの年齢は「5歳まで」と「6歳まで」が35.3%と最も多く、次いで「3歳まで」が17.6%となっています。

◆預け始めたい年齢



◆預け終わりの年齢

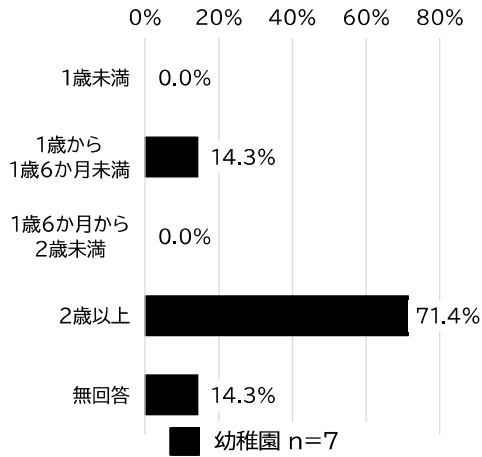


<幼稚園>

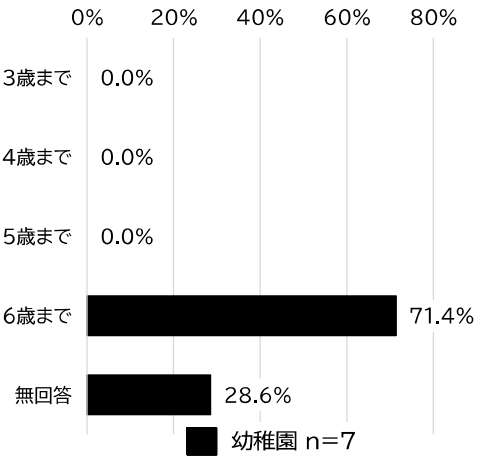
預け始めたい年齢は「2歳以上」が71.4%と最も多く、次いで「1歳から1歳6か月未満」が14.3%となっています。

預け終わりの年齢は「2歳以上」が71.4%と最も多くなっています。

◆預け始めたい年齢



◆預け終わりの年齢

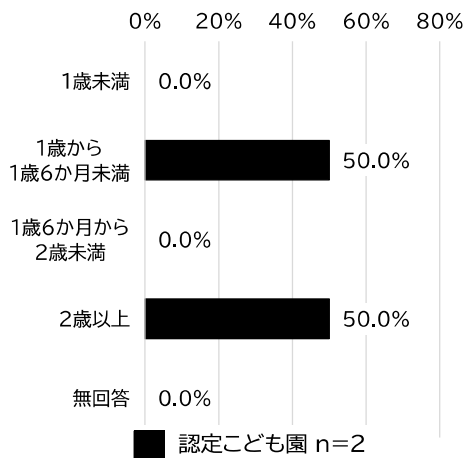


<認定こども園>

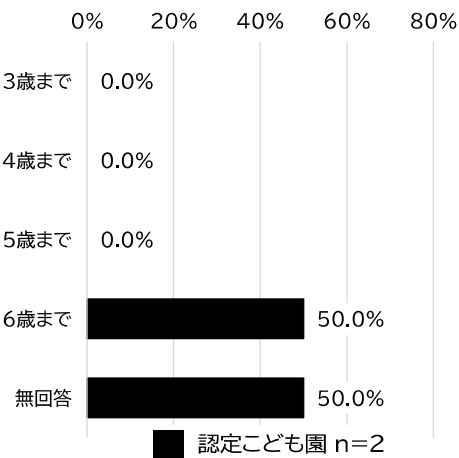
預け始めたい年齢は「1歳から1歳6か月未満」と「2歳以上」がともに50.0%となっています。

預け終わりの年齢は「6歳まで」が50.0%となっています。

◆預け始めたい年齢



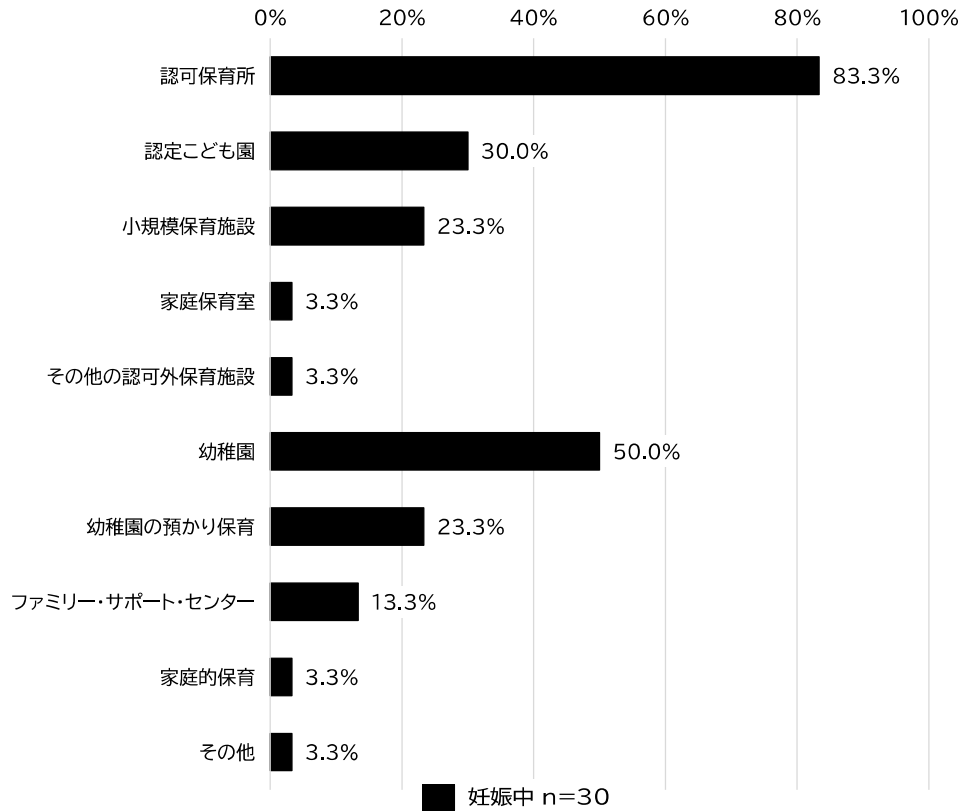
◆預け終わりの年齢



<妊娠中:問15>

お子さんに日常的に利用させたいと考える幼稚園や保育所などの施設等(以下、幼稚園保育所等)をお答えください。(複数回答)

妊娠中保護者は「認可保育所」が83.3%と最も多く、次いで「幼稚園」が50.0%、「認定こども園」が30.0%、「小規模保育施設」と「幼稚園の預かり保育」がともに23.3%となっています。



※「事業所内保育施設」、「居宅訪問保育」は回答者がいなかったため、図を省略している

<妊娠中:問16、出産後:問5>

(妊娠中)お子さんについて、地域の子育て支援事業を利用したいと思いますか。

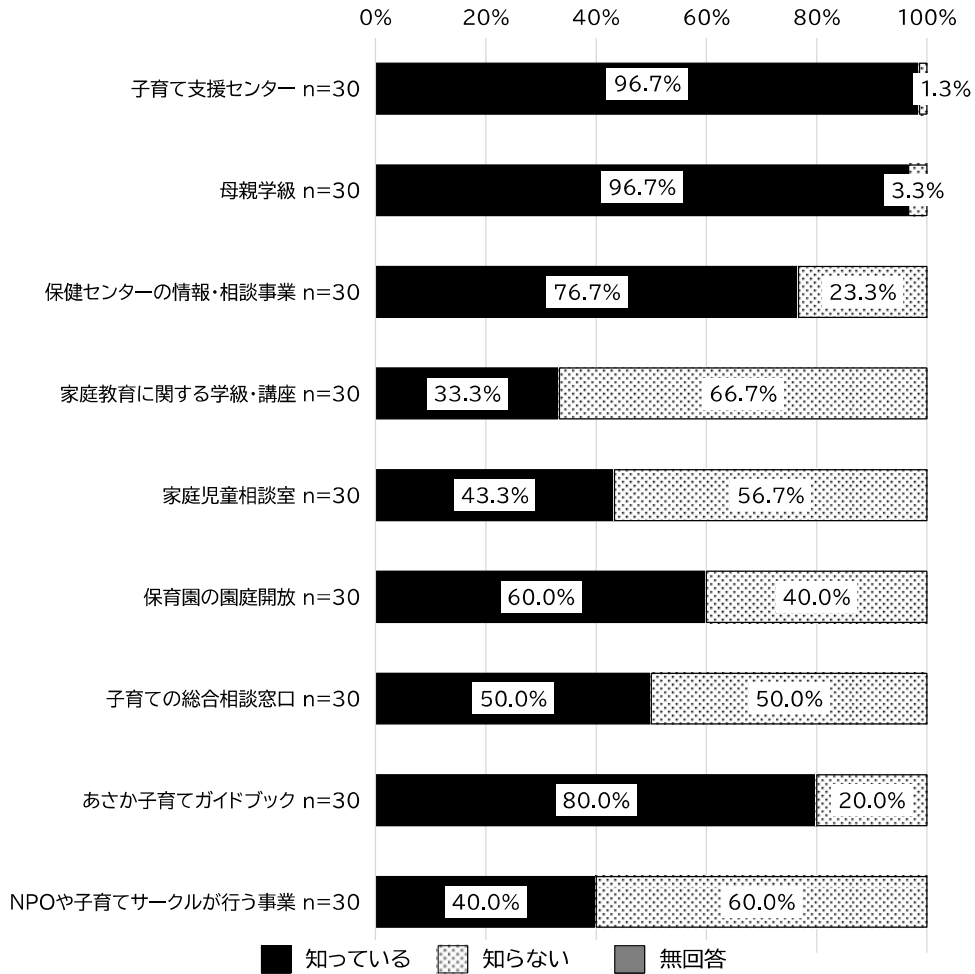
(出産後)朝霞市には子育てや家庭の悩みや困りごと、幼稚園や保育園の利用などについて相談できる窓口がありますが、ご存じですか。

各事業ごとに、A・B・Cのそれぞれについて、「はい」「いいえ」のいずれかに○をつけてください。(単数回答)

◆妊娠中

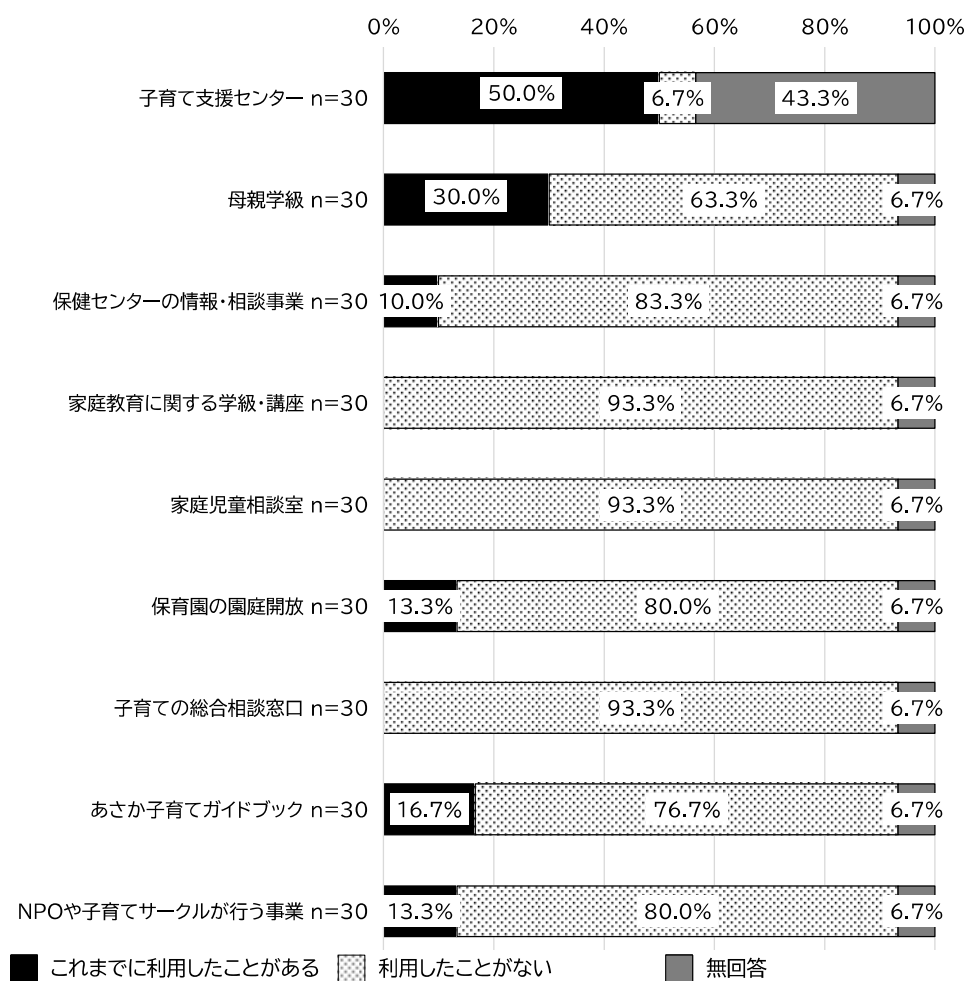
子育て支援事業の認知度

各事業の認知度は、「子育て支援センター」と「母親学級」がともに96.7%と最も多く、次いで「あさか子育てガイドブック」が80.0%、「保健センターの情報・相談事業」が76.7%となっています。



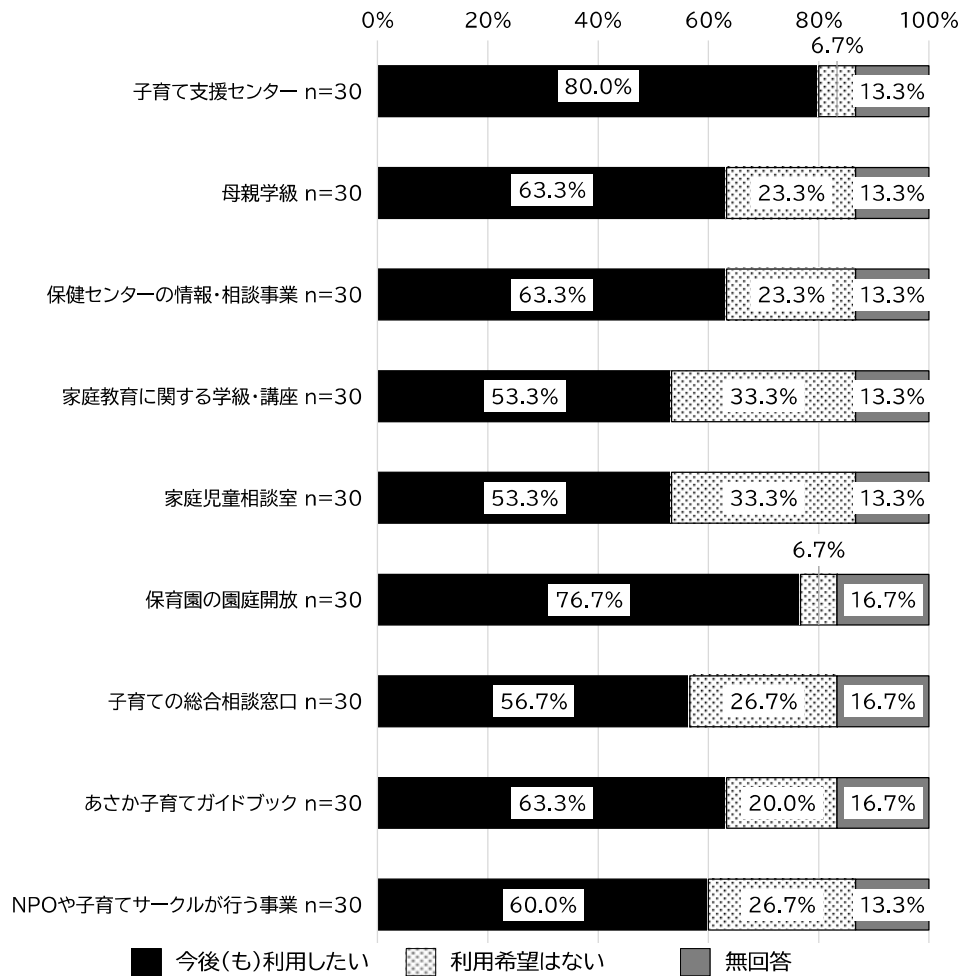
子育て支援事業の利用経験

各事業の利用経験は、「子育て支援センター」が50.0%と最も多く、次いで「母親学級」が30.0%、「あさか子育てガイドブック」が16.7%となっています。



子育て支援事業の今後の利用希望

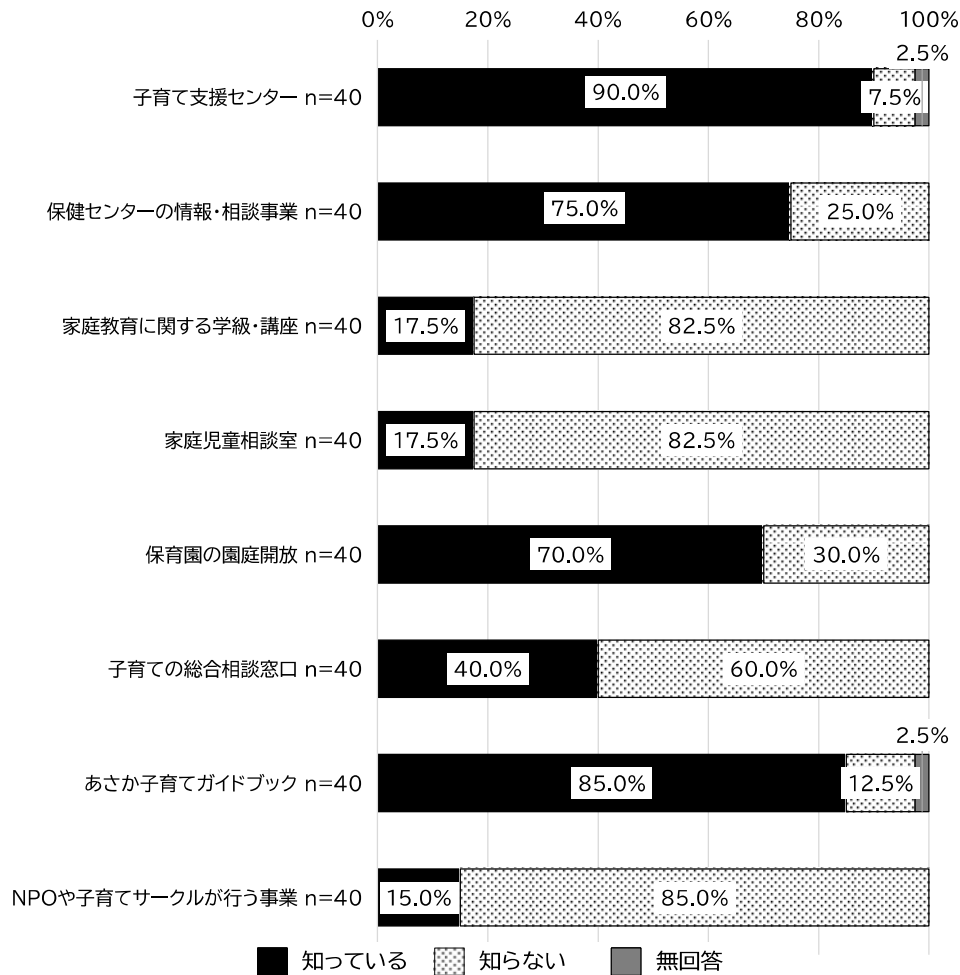
子育て支援事業の今後の利用希望は、「子育て支援センター」が80.0%と最も多く、次いで「保育園の園庭開放」が76.7%、「母親学級」、「保健センターの情報・相談事業」と「あさか子育てガイドブック」がともに63.3%となっています。



◆出産後

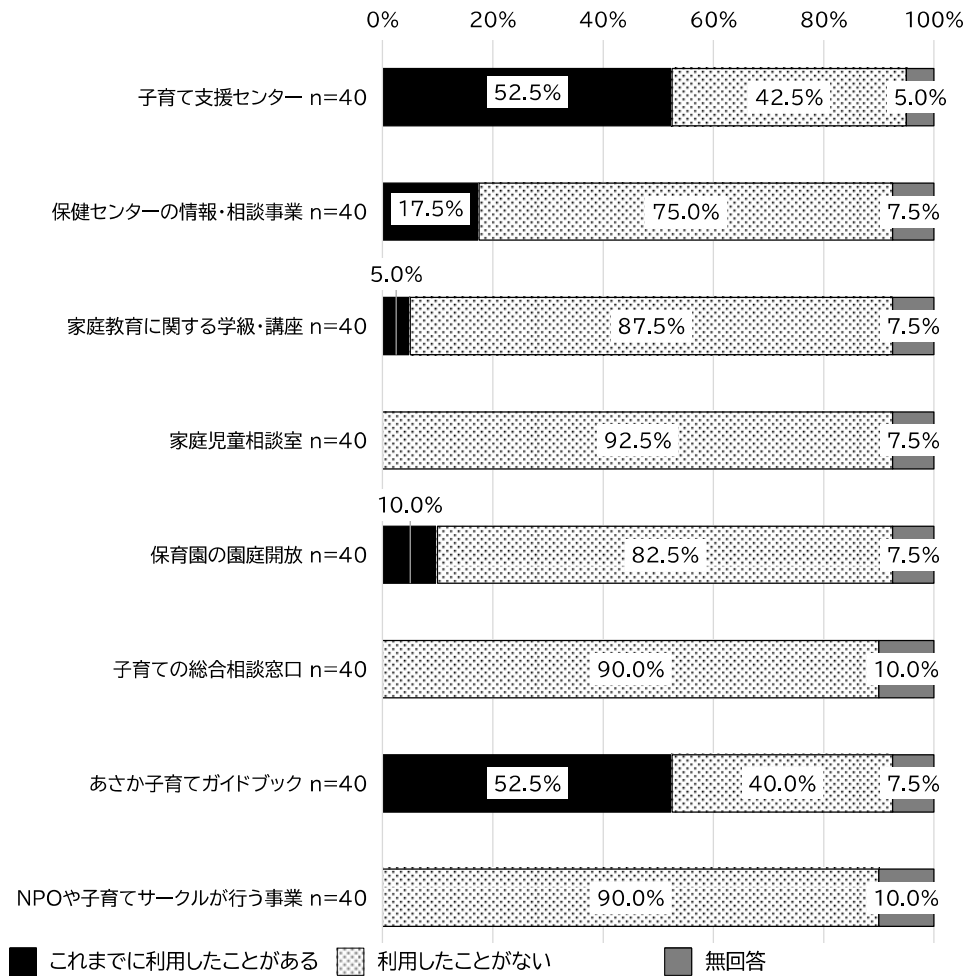
子育て支援事業の認知度

各事業の認知度は、「子育て支援センター」が90.0%と最も多く、次いで「あさか子育てガイドブック」が80.0%、「保健センターの情報・相談事業」が75.0%、「保育園の園庭開放」が70.0%となっています。



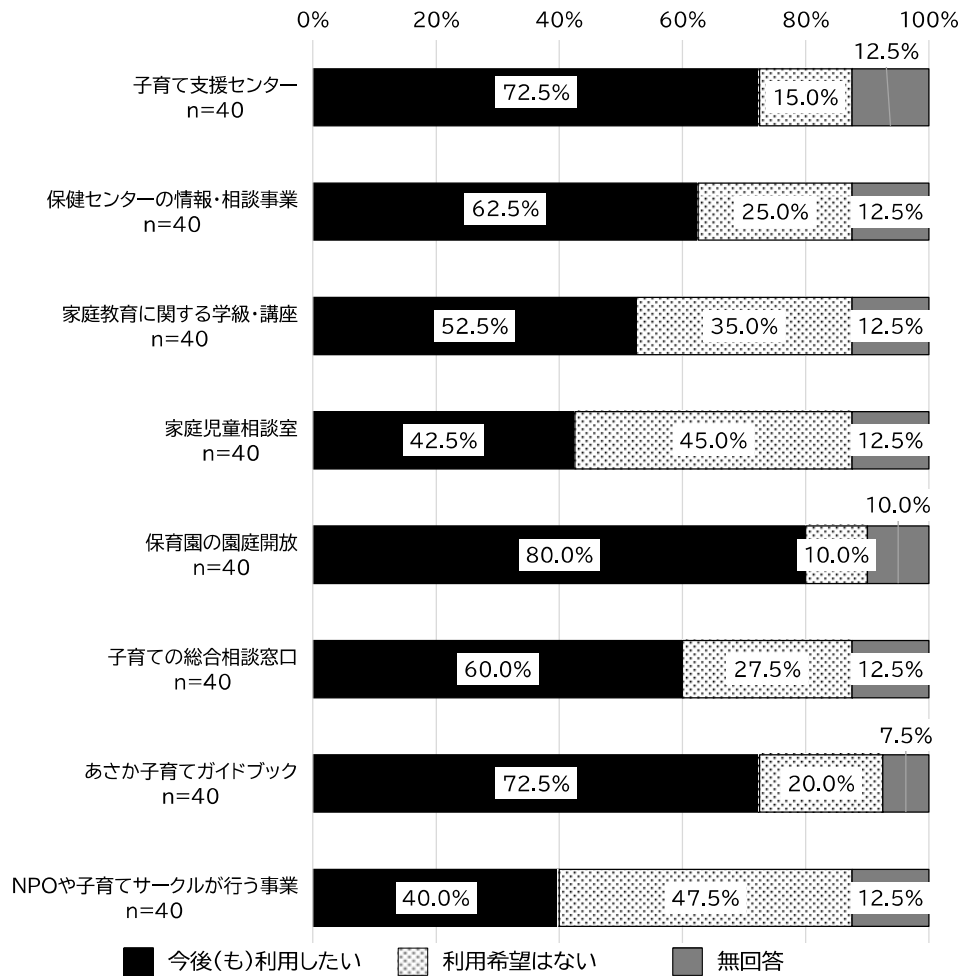
子育て支援事業の利用経験

各事業の利用経験は、「子育て支援センター」と「あさか子育てガイドブック」がおもに52.5%と最も多く、次いで「保健センターの情報・相談事業」が17.5%、「保育園の園庭開放」が10.0%となっています。



子育て支援事業の今後の利用希望

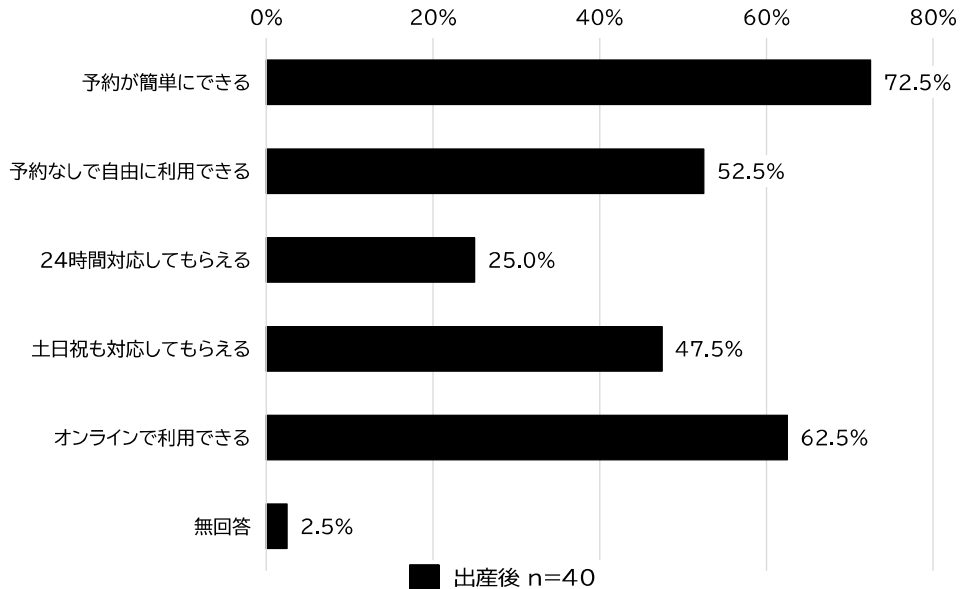
各事業の今後の利用希望は、「保育園の園庭開放」が80.0%と最も多く、次いで「子育て支援センター」と「あさか子育てガイドブック」がともに72.5%、「保健センターの情報・相談事業」が62.5%となっています。



<出産後:問6>

問5で挙げたようなサービスが利用しやすくなるためにはどのようなことが必要だと思いますか(複数回答)

出産後の方は「予約が簡単にできる」が72.5%と最も多く、次いで「オンラインで利用できる」が62.5%、「予約なしで自由に利用できる」が52.5%、「土日祝も対応してもらえる」が47.5%、「24時間対応してもらえる」が25.0%となっています。

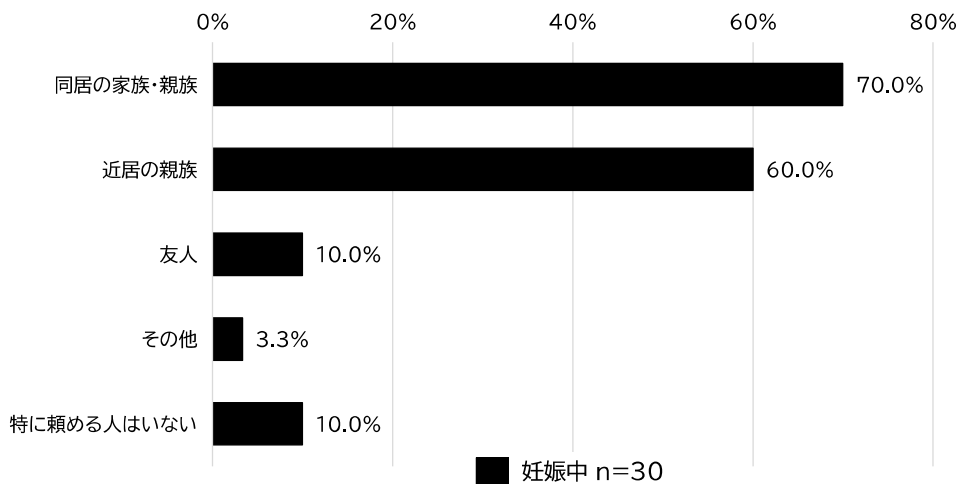


※「特に利用したいと思わない」、「その他」は回答者がいなかったため、図は省略している

<妊娠中:問17>

あなたには、お子様の世話を頼めそうな人が身近にいますか。(複数回答)

妊娠中保護者は「同居の家族・親族」が70.0%と最も多く、次いで「近居の親族」が60.0%、「友人」と「特に頼める人はいない」がともに10.0%、「その他」が3.3%となっています。



※「近所の人」と回答者がいなかったため、図は省略している

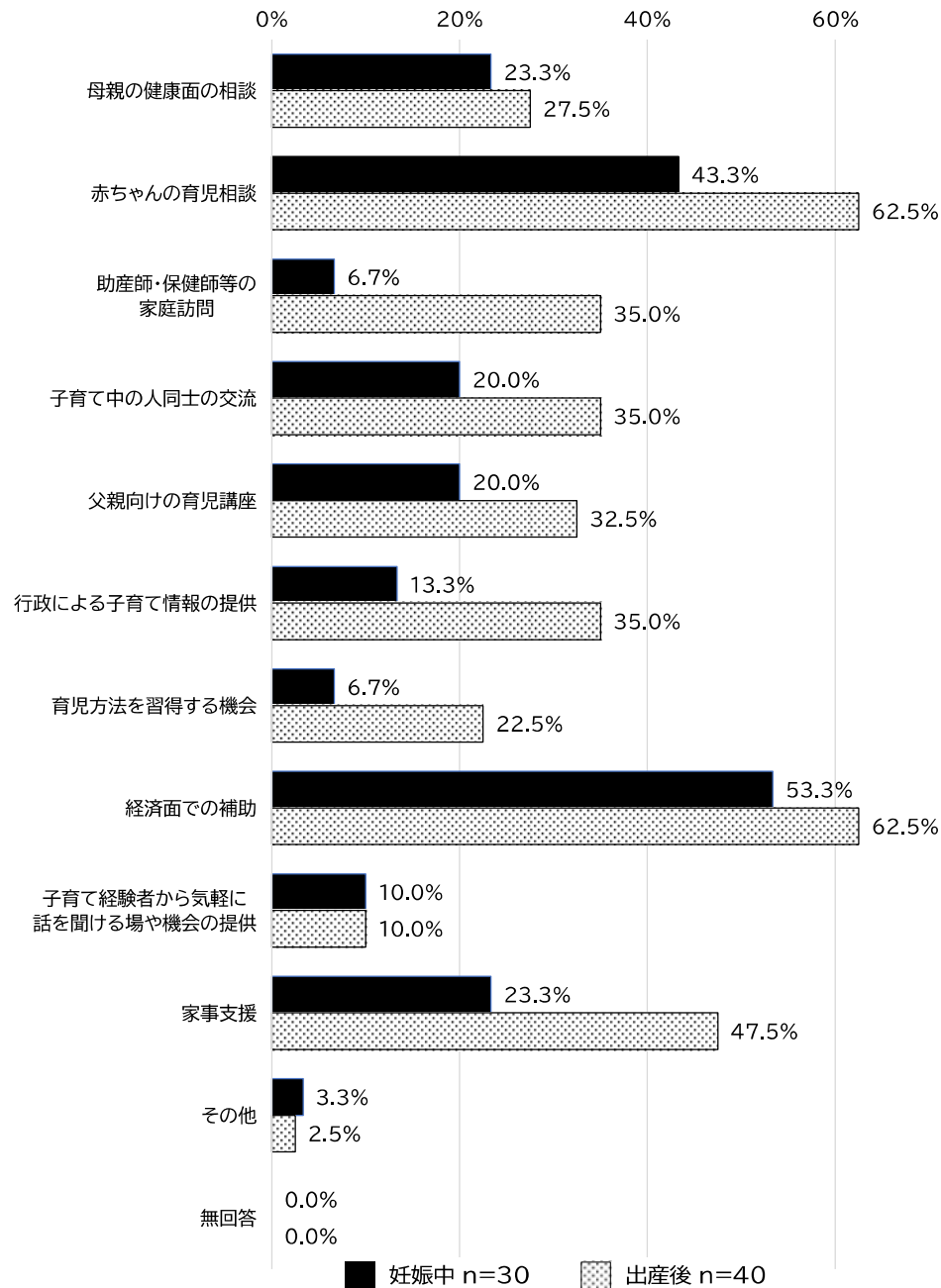
<妊娠中:問18、出産後:問4>

(妊娠中)妊娠中や出産後に重要なサポートとはどのようなものだと思いますか。(最も当てはまる番号2つに〇)

(出産後)妊娠・出産に関するサポートとして、必要なことはありますか。(複数回答)

妊娠中保護者は「経済面での補助」が53.3%と最も多く、次いで「赤ちゃんの育児相談」が43.3%、「母親の健康面の相談」と「家事支援」がともに23.3%、「子育て中の人同士の交流」が20.0%となっています。

出産後の方は「赤ちゃんの育児相談」と「経済面での補助」がともに62.5%と最も多く、次いで「家事支援」が47.5%、「助産師・保健師等の家庭訪問」と「子育て中の人同士の交流」、「行政による子育て情報の提供」がそれぞれ35.0%となっています。

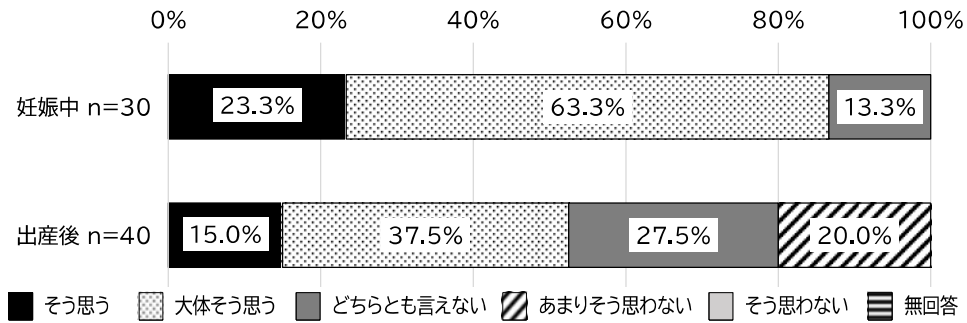


<妊娠中:問19、出産後:問7>

(妊娠中)朝霞市は安心して出産・子育てをするのに適したまちだと思いますか。(単数回答)
 (出産後)朝霞市は子育てしやすいまちだと思いますか。(単数回答)

妊娠中の方は「大体そう思う」が63.3%と最も多く、次いで「そう思う」が23.3%、「どちらとも言えない」が13.3%となっています。

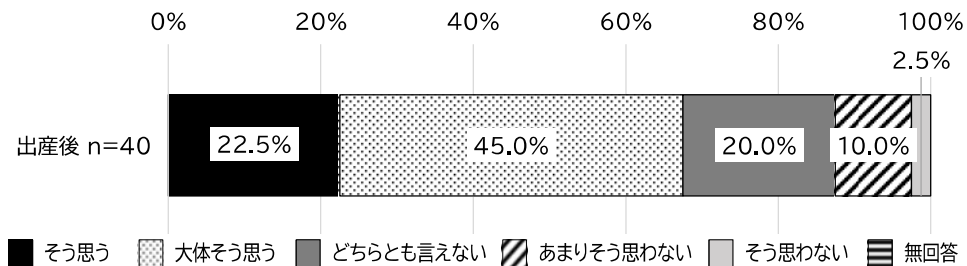
出産後の方は「大体そう思う」が37.5%と最も多く、次いで「どちらとも言えない」が27.5%、「あまりそう思わない」が20.0%、「そう思う」が15.0%となっています。



<出産後:問8>

ずっと朝霞市内で子育てをしていきたいと思いませんか。(単数回答)

出産後の方は「大体そう思う」が45.0%と最も多く、次いで「そう思う」が22.5%、「どちらとも言えない」が20.0%、「あまりそう思わない」が10.0%となっています。



4. 子育て支援施設職員・障害児関係団体アンケート調査

■調査実施概要

①子育て支援関係施設

種類	対象数	回収数	調査期間	調査方法
保育園	23件	12件	12月19日～ 1月19日	郵送配布 郵送又は WEB回収
放課後児童クラブ	6件	4件		
児童館	5件	5件		
子育て支援センター	5件	3件		

②障害児関係団体

種類	対象数	回収数	調査期間	調査方法
児童発達支援 放課後等 デイサービス	11件	7件	12月19日～ 1月19日	郵送配布 郵送又は WEB回収

③子どもの貧困に関する支援団体

種類	対象数	回収数	調査期間	調査方法
民生委員	-	-	12月19日～ 1月19日	メール配布 メール回収
学習支援団体	2団体	1団体	12月19日～ 1月19日	
子ども食堂	5団体	3団体	12月19日～ 1月19日	

■結果の概要

①子育て支援関係施設

◆主な意見

●子育て支援の観点から、当該施設のよいところ（保護者から評価されているところ）

- ・職員と保護者、職員と子どもたちの関係性が良好である。
- ・職員の入れ替わりが少なく、職員間の風通しが良い。
- ・施設がきれいで、施設が駅から近く使いやすい、おもちゃや遊具が充実している。

●子育て支援の観点から、当該施設の改善すべきと思うところ

- ・設備の整備・改善（遊ぶスペースの確保、施設全体の老朽化等）。
- ・研修を積極的に活用し、職員の資質を向上させていきたい。
- ・（新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことも受け）利用者等との関わりを見直したい。
- ・電話での予約となっているが、ネットでの予約ができるようになってほしいという要望もある。
- ・重度心身障害のお子さんの利用が少なく、選択肢の一つになっていない。
- ・日本語が堪能でないご家庭に対するフォローが不十分である。

●日ごろの活動を通じて、保護者から寄せられる要望や意見

【市行政や子育てをめぐる環境全般について】

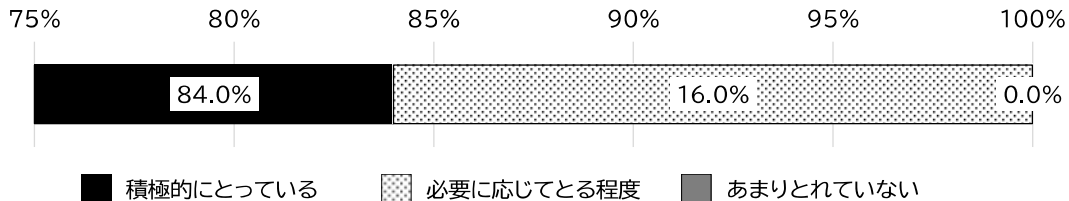
- ・駅にエレベーターがなく、不便である。
- ・4年生以降も学童保育が使えるようにしてほしい、学童施設を増やしてほしい。
- ・正社員職員が少なく、離職が多い。
- ・歩道が狭い、自転車のルールが周知徹底されていない。
- ・一時預かり保育枠が少ない。

【当該施設に対して】

- ・仕事以外でも子どもを預かってほしい、預かり時間について柔軟な対応をしてほしい。
- ・利用する際の荷物が重い。
- ・保育サービスの拡充（一時預かり保育や学童保育、0歳児保育等）
- ・子どもの普段の様子が知りたい。
- ・駐車場を増やしてほしい。

- 日ごろの業務を通じて、最近の子どもをみていて、考えさせられたこと、問題だと思ったこと
 - ・保護者の子どもへの関わり方が未熟である。子どもだけで遊ばせていることが多い。
 - ・躰が不十分、子どもの主体性ばかりが尊重されすぎている。悪い時にダメだと注意しづらい。
 - ・発達の遅れが気になる子どもがいる。
 - ・タブレット等の使用時間が長く、睡眠時間が不足している。
 - ・小中高生の金銭感覚、昔と比べると高価なものを持っていることが多い。

- ふだん、職員は保護者と積極的にコミュニケーションをとるようにしているか



- 保護者とコミュニケーションをとる際に気をつけている工夫
 - ・誰がきてもあたたかく迎え入れる。初めて来館される方にわかりやすく、丁寧に説明する。
 - ・相手の気持ちや立場を尊重し、コミュニケーションを取っている。
 - ・質問や不安な点について丁寧に対応している。
 - ・日頃の様子等を正直に伝えている、家庭でも協力してほしいことは積極的に伝えている。
- 保護者とコミュニケーションをとる際に困難だと感じていること
 - ・新型コロナウイルス感染症の流行でコミュニケーションを取るのが難しかったが、最近改善されている。
 - ・保護者のカウンセリングのようなことも依頼されるが、こういった医療機関・支援機関に繋げるべきかわからない。
- 朝霞市の子ども子育ての環境を充実させるために、現在不足していると感じるサービス・事業
 - ・保育サービスの充実(一時預かり保育や休日保育、新4年生以上の居場所等)。
 - ・子育てについて相談できる窓口や事業。
 - ・サービス自体は充実していると思うが、その周知が不足している。
 - ・保育士が不足している(住宅借り上げ事業がないことで 選択肢から外れている、処遇改善を充実させてほしい)
 - ・障害児のお子さんや、外国人の親子に対する支援サービス。

②障害児関係団体

◆主な意見

- 朝霞市の子育て支援制度やサービス、子どもたちを取り巻く環境をみて、よいと思うところ
 - ・子育て支援ガイドブックや、障害福祉課の窓口のパンフレット等 情報が得やすい。
 - ・公園や児童館等 子どもの遊び場が充実している。
 - ・児童発達支援事業所が多いので、子どもと相性が良い事業所を選べる。受給者証が発行されやすい。

- 朝霞市の子育て支援制度やサービス、子どもたちを取り巻く環境をみて、改善すべきと思うところ
 - ・保育園等に連携(見学や訪問等)を断られるケースがある。
 - ・障害発達検査や、療育を受けられるところが少ない。
 - ・こういったサービスが行われているのかを把握できない、情報をまとめてほしい。

- 日ごろの活動を通じて、保護者から寄せられる要望や意見

【市行政や子育てをめぐる環境全般について】

- ・同じような悩みを抱えている保護者と交流をしたい、先輩ママの話が聞きたい。
- ・相談できる人・場所がない。
- ・就学相談の情報が少ない。
- ・補助金

【障害児施策に対して】

- ・保護者が就労を希望しているケースで、医療的ケア児を預かってくれる施設が少ない。
- ・相談支援事業所の空きがない。セルフプラン申請となることが心配。
- ・児童発達支援に比べて放課後等デイサービスの空きが少ない。療育を受けたくてもキャンセル待ちである。
- ・受給者証発行までの流れがわかりづらい。発行に時間がかかる、対応が冷たい。

●ふだん、保護者や児童本人から障害についてどのような悩みを寄せられた場合、どのような対応をすることが多いか

【福祉や保育に関することで】

- ・わかる範囲での情報提供をしている。
- ・すでに障害児が通所している保育園を紹介している。

【医療に関することで】

- ・かかりつけ医や総合病院等 内容に応じて案内している。
- ・てんかんの対処法について相談された際は埼玉県ZOOM研修をSNSで見つけ、紹介した。
- ・服薬に関する相談は、通所されているお子様の事例とともに病院への確認を推奨した。

【学校・教育に関することで】

- ・学校訪問や保育園訪問の実施。
- ・就学の相談であれば、卒園児の保護者の体験談をお話いただく機会をつくったり、朝霞市の修学オリエンテーション資料の提供等をしている。
- ・障害児が通える習い事について、営業で収集した情報を提供している。

【その他生活全般で】

- ・ゆっくりお話ができる時間を設けたり、相談支援員さんと内容を共有する等をしている。
- ・自宅での特性に対する対処方法は、療育目線でアドバイスをを行った。
- ・まずは悩みを聞いて、落ち着いてから提案するようにしている。

●朝霞市で子育てをするうえで、どのような情報が必要か

- ・サービスや支援をわかりやすくし、すべての園や学校は外部と繋がっていることを明示してほしい。
- ・子どもの育ちに心配があった時の相談先。
- ・障害を受け入れてくれる医療現場の一覧表。

●朝霞市の子ども子育ての環境を充実させるために、現在不足していると感じるサービス・事業

- ・障害児の一時預かり保育や、相談支援事業所。
- ・小学校と、保育園・幼稚園・児童発達支援の就学時の連携。
- ・子育て支援等の情報が得られるサービス。サービスについて情報収集したり、問い合わせができたりするアプリ。
- ・子どもが急遽体調不良になった際の預け先。

③子どもの貧困に関する支援団体

◆主な意見

●団体の活動について

- ・(民生委員)非常勤の特別職地方公務員で、地域住民の「身近な相談相手」であると同時に、「支援へのつなぎ役」。
- ・(学習支援)学習支援を通じて 子どもやその家庭が抱える課題について相談に応じている。
- ・(子ども食堂)地域の子どもたちや子育て世帯へのお弁当配布、イベント食材配布、会食機会の提供等

●貧困家庭の子どもの状況、課題について

【保護者の特徴・課題】

<学習支援団体>

- ・生活保護世帯や外国人世帯が多く、世代にわたって生活保護を受給しているケースも多い。
- ・就労していないか、非正規雇用であることが多く、また精神的不調により家庭にいる時間が長い。
- ・排他的で他人を信用せず、課題を自ら抱え込んでしまうような保護者も多い。

<子ども食堂>

- ・ひとり親もいるが、お金に困っている様子はなく、どちらかというと共働き世帯の方が税金でお金が残らず苦しそう。経験の貧困も見受けられる。
- ・ひとり親世帯や生活保護世帯には、現金給付ではなく、現物支給が必要だと感じる。
(現金だと保護者の私腹を肥やす家庭もある)

<民生委員>

- ・行政と民間団体、社会福祉協議会の枠を超えた連携が必要である。

【子どもの特徴・課題】

<学習支援団体>

- ・保護者が多忙だったり、生活能力が欠如したりで、ヤングケアラー状態になっている子どももいる。
- ・自己肯定感が低く、学力も低いことが多く、成功モデルが身近にいないことも課題である。

<子ども食堂>

- ・家庭の問題や課題があるような子はほとんど見受けられない。
- ・子どもたちだけで食べにきた子どもたちとは、積極的に親や生活の話を聞き取るようにしている。

<民生委員>

- ・お金の使い方がおかしかったり、食事ではなくお菓子でお腹を満たしているような子どももいる。
- ・コミュニケーション能力が乏しいと感じることもある。

【団体の活動で支援されている部分】

<学習支援団体>

- ・食糧支援を契機に世帯主・子どもとの関係作りを行い、学習教室への参加に結び付ける。

<子ども食堂>

- ・いつでも食事や食材の提供ができるようにしている。
- ・家庭内のトラブル等への相談・対応も行っている。

●貧困家庭の子どもに対して今後必要だと思われる支援等(行政の支援、その他の支援含めて)

<子ども食堂>

- ・全地域の子どもたちに3か月に1回は会えるような、食材や弁当を届けられる制度。
- ・貧困家庭に対しては現物支給が必要だと思う。

<民生委員>

- ・長期休暇時に食事や居場所支援、またわかりやすい性教育。

●団体の活動で支援できていない部分、活動範囲外で支援を必要としていると思われる内容

<子ども食堂>

- ・学習支援や居場所の提供、本人の意思で来れる避難場所の提供。

●団体の活動における課題

<子ども食堂>

- ・対応できるメンバーが限られており、資金面も厳しいのが現状である。
- ・メンバーに子育て世代が多いので、夕方以降の体制が手薄になりやすい。
- ・拠点(場所)がないので、物品の荷受け場所や保管場所がない。

●今後について

<子ども食堂>

- ・活動場所を確保し、定期的な食料品配布の他に、学習支援等で子どもたちに長期的な支援を行いたい。
- ・月に一度の開催と、児童館への食事の提供を継続的に行いたい。

<民生委員>

- ・個人情報の取扱いとの折り合いが難しい。色々な立場の人と情報共有をしていきたい。
子どもを支援している団体や行政、保健師等と話し合う機会がほしい。

令和6年度スケジュール(案)

資料4

	子ども・子育て会議		子ども・子育て支援事業計画部会		保育園等運営検討部会 ※時期未定		保育園等利用者負担検討部会 ※時期未定		庁内検討委員会	
令和6年5月下旬	第1回	①アンケート結果報告、ヒアリング調査結果の 報告 ②今後の第3期計画策定スケジュールの説明								
令和6年7月上旬			第1回	①朝霞市の現状と第2期計画の 振り返り (アンケート結果等を踏まえ) ・現状と課題の確認 ・第2期計画の振り返り ・第3期計画に向けた方向性の検討 ②第3期計画 骨子案 について検討						
令和6年7月中旬	第2回	①R5事業進捗管理・評価 ②部会での審議内容の報告 ③第3期計画 骨子案の確定								
令和6年7月下旬									第1回	①第3期計画の方向性 ② 骨子案の説明、確定報告 ③ 骨子案に基づいた主な事業の紐づけ依頼
令和6年10月中旬									第2回	① 素案の検討
令和6年10月下旬			第2回	①第3期計画 素案 について検討						
令和6年11月上旬	第3回	①R5事業進捗管理・評価 ②第3期計画 素案の確定 パブコメにかける素案の確定								
令和6年12月下旬 ～令和7年1月上旬		パブコメ・職員コメントの実施								
令和7年1月下旬	第4回	①第3期計画案について (会議決定) ・パブコメの結果、職員コメントの結果について ②R5事業進捗状況報告書について								
令和7年2月上旬										政策調整会議 庁議 全員協議会
令和7年3月下旬		第3期計画の策定 (完成)								